

鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域 埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅰ)

熊毛地区

(西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町)

平成4年度

1993年3月

鹿児島県教育委員会



上屋久町八石山之上下遺跡

序 文

県では、鹿児島県総合基本計画の中で、薩摩半島南部から熊毛、三島にわたる地域において「鹿児島サン・オーシャン・リゾート構想」の推進を掲げています。これは、優れた自然、独特の歴史、文化などを生かし、太古から未来への時間の流れを体験できるリゾートの形成を目指すものです。

そこで、県教育委員会では、リゾート構想の進展に合わせて、緊急にこの地域の埋蔵文化財の保護とリゾート開発との調整に必要な資料の整備を図るため、平成4年度から3か年計画で同地域の埋蔵文化財分布調査を実施することとしました。初年度は、熊毛地域の西之表市、中種子町、南種子町、屋久町、上屋久町について調査を実施しました。

本書は、この分布調査結果をとりまとめたものであり、この地域の埋蔵文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに、本調査に御協力をいただいた関係市町教育委員会並びに関係者に心から感謝の意を表します。

平成5年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 伊牟田 茂 夫

例 言

1. 本書は、平成4年度に実施した「鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域埋蔵文化財分布調査」の報告書である。
2. 本年度は熊本地区1市4町（西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町）を対象とした。
3. 調査は、「鹿児島サン・オーシャン・リゾート構想」の重点整備地区内の田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本とし、必要に応じて聞き取り調査を行なった。
4. 調査にあたっては、各市町作製の1万分の1地形図を利用した。なお、本報告書の挿図として利用した遺跡周辺地形図は、同地形図をトレースし、真北を上に向けてレイアウトした。また、図中の矢印は写真撮影方向を示す。
5. 本報告書の挿図、写真は青崎・富田で作製した。
6. 執筆分担は、下記のとおりである。
第1章、第2章1・2節……………青崎
第2章3・4・5節……………富田
7. 挿図縮少率は次のとおりである。
土器……………2分の1 剥片石器……………4分の3
石斧……………3分の1 石皿・磨石等……………70%×1/3
8. 付図中の遺跡地図・地名表は、黒刷り一周知の遺跡、赤刷り一新発見のものである。
9. 編集は、青崎、富田が行なった。

目 次

第1章 調査の経過……………	1	2 駒取野遺跡……………	28
第1節 調査に至までの経過……………	1	3 安久保遺跡……………	29
第2節 調査の組織……………	1	4 西之大宮田遺跡……………	30
第3節 調査の経過(日誌抄)……………	2	5 真所汐入遺跡……………	31
第2章 調査報告……………	4	6 上松原汐入遺跡……………	32
第1節 西之表市の調査……………	4	7 松原山遺跡……………	33
1 塔ノ原遺跡……………	5	8 友心汐入A遺跡……………	34
2 榎迫遺跡……………	6	9 友心汐入B遺跡……………	35
3 長深田遺跡……………	7	10 赤石牟田遺跡……………	36
4 峰ノ園遺跡……………	8	11 福ヶ野A遺跡……………	37
5 大宮田A遺跡……………	9	12 福ヶ野B遺跡……………	38
6 大宮田B遺跡……………	10	13 上平遺跡……………	39
7 深田遺跡……………	11	第4節 上屋久町の調査……………	40
8 一ノ鳥居遺跡……………	12	1 八石山之上下遺跡……………	41
9 池之窪遺跡……………	13	2 小落上遺跡……………	43
10 松原遺跡……………	14	3 小落遺跡……………	44
第2節 中種子町の調査……………	15	4 下牧野遺跡……………	45
1 野間太郎坊遺跡……………	16	第5節 屋久町の調査……………	46
2 下ノ園遺跡……………	17	1 東宮原遺跡……………	47
3 中平地遺跡……………	18	2 瀬ノ原遺跡……………	48
4 下ノ平遺跡……………	19	3 新八野遺跡……………	49
5 壱里塚遺跡……………	21	4 白宇志遺跡……………	50
6 梶ノ本遺跡……………	22	5 山口遺跡……………	51
7 本願寺遺跡……………	25	6 横峯遺跡……………	53
第3節 南種子町の調査……………	26	7 倉掛下町遺跡……………	54
1 銭亀遺跡……………	27	まとめにかえて……………	56

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、サン・オーシャン・リゾート計画の進展にあわせて、4市15町1村（西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町・指宿市・喜入町・山川町・穎娃町・開聞町・三島村・枕崎市・加世田市・笠沙町・大浦町・坊津町・知覧町・川辺町・吹上町・金峰町）について埋蔵文化財分布調査を平成4年度から6年度までの予定で計画した。

これは、埋蔵文化財の保護とサン・オーシャン・リゾート開発との調整のための資料を得ることを目的としたものである。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年4月）に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆ごとの悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施することとした。また、その結果について分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成4年度は、西之表市・中種子町・南種子町・上屋久町・屋久町の1市4町を対象にして埋蔵文化財分布調査を実施した。調査期間は、平成4年10月26日～11月27日を要した。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	伊牟田 茂 夫
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課	課 長	向 山 勝 貞
調査企画担当者	〃	課 長 補 佐	梅 北 一 人
	〃	主任文化財主事 兼埋蔵文化財係長	吉 元 正 幸
調査担当者	〃	文 化 財 主 事	青 崎 和 憲
	〃	文 化 財 研 究 員	富 田 逸 郎
調査事務担当者	〃	主幹兼企画文化係長	濱 崎 琢 也
	〃	主 査	枇 杷 雄 二

調査にあたっては、熊毛教育事務所・熊毛教育事務所屋久島駐在をはじめ、西之表市教育委員会、中種子町教育委員会、南種子町教育委員会、上屋久町教育委員会、屋久町教育委員会の協力を得た。

なお、調査事務所として中種子町立歴史民俗資料館の一室を提供していただいた。

第3節 調査の経過（日誌抄）

1市4町における分布調査は、平成4年10月26日(月)から11月27日(金)までとした。

10月26日(月) 熊毛教育事務所へあいさつ、後、西之表市教育委員会（以下、教委）と種子島総合開発センターで分布調査についての打ち合せ。サン・オーシャン・リゾート地区における埋蔵文化財の分布調査にあたっては、原則的に重点整備地区を主体に分布調査を行うこととし、農業基盤整備事業等の施工済みの地区については、調査対象外とした。本日から市教委河野主査同行のもと、種子島北部国上地区の分布調査開始。国上地区については、大半が山間部であった。遺跡は確認されなかった。

27日(火) 昨日の未調査地区と西之表地区の調査。塔ノ原、榎迫で遺物が採集された。

28日(水) 西之表地区の未調査部分の調査。長深田、峰ノ園、大宮田で遺物を採集した。

29日(木) 市街地内の調査開始。一ノ鳥居で縄文土器や集石を発見した。現和地区調査開始・現地の大半はほ場整備事業がすでに施工済みであったため、対象から外した。

30日(金) 安納・安城地区調査。大半がほ場整備事業施工済みであった。

11月4日(水) 南種子町教育委員会(以下、教委)にて、分布調査についての打ち合せを行なった。同教委の上園体育文化係長の道案内で、西之地区の調査を開始した。当地区は種子島本島の最南端に位置する。銭亀、駒取野、安久保で遺物を採集した。

5日(木) 西之地区の未調査部分と中之下地区の調査。西之大宮田や真所汐入で中世の遺物を表採した。これらの遺跡は海岸に近く沖積低地に所在する。その後、莖永地区の調査。宮瀬川右岸の砂丘裾部に位置する上松原汐入、松原山、友心汐入で遺物が発見された。平山地区の調査。山間部の赤石牟田、福ヶ野上平で遺物を採集した。

6日(金) 新発見の遺跡地の現地写真撮影。図面整理と町教委にあいさつ。

9日(月) 中種子町教育委員会及び歴史民俗資料館にて、分布調査についての打ち合せを行なった。町教委岩坪文化係長とともに野間地区の調査開始。野間太郎坊で中世の遺物を表採した。

10日(火) 坂井地区・油久地区調査の調査。遺跡は発見できなかった。周辺の遺跡である阿獄洞窟周辺も確認する。洞窟は海岸寄りにあり風化が著しい。

11日(水) 昨日の油久地区の未調査部分の調査。

12日(木) 増田地区調査開始。下ノ園、中平地、下ノ平壺里塚で縄文土器・石器を発見した。また、周知の遺跡である鳥ノ峰遺跡の確認と周辺を詳細に調査した。

13日(金) 増田地区の梶ノ本、本願寺で遺物を発見した。その後、新たに発見した7か所の遺跡の現地写真撮影。町教委へ調査結果報告とあいさつ。

16日(月) 屋久町教育委員会にて、本町の分布調査について打ち合せ後、町教委文化課の西田主査同行のもと栗尾地区・中間地区の調査に入る。栗尾湾に面した営林署官舎敷

地内の砂丘地の畑地より、成川式土器片を採集した。

17日(火) 湯泊地区・平内地区・小島地区の調査，瀬ノ原・新八野・白宇志で土器等の遺物を採集した。

18日(水) 安房地区の調査，横峰，倉掛で土器遺物等を表採した。

19日(木) 原地区，麦生地区の調査，山口の屋敷畑において石器や縄文土器等を表採した。

20日(金) 尾之間地区調査。新たに発見した7遺跡の現地写真撮影。町教委へ今回の調査結果の報告とあいさつ。

24日(火) 上屋久町教育委員会にて，本町の分布調査についての打ち合せ後，町教委計屋主事の同行のもと一湊地区の調査開始。役場より南西の傾斜面の八石山之上下で四連段築覆石（仮称）の石室を構築した遺構が発見された。時期・用途については現在不明である。周知の一湊遺跡周辺確認。志戸子地区・小瀬田地区調査、小落上・小落で土器を採集した。

25日(水) 楠川地区調査。下牧野で土器を採集した。新たに発見した4遺跡の現地写真撮影。町教委に今回の調査の結果報告とあいさつ。西之表市に移動し，西之表地区の未調査地区の調査を行なった。松原、池ノ窪の2か所から遺物の表採が確認された。

26日(木) 西之表市の調査で新たに発見された10か所の現地写真撮影を行なった。その後南種子町の未調査地区の調査。

27日(金) 中種子町・南種子町で新たに発見された現地写真撮影と図面整理。本日で熊毛地区の分布調査は終了した。

第2章 調査報告

第1節 西之表市

種子島は大隅半島佐多岬の東南約40kmの海上にあり、南北の延長52km、幅12kmの細長い島である。西之表市は、種子島の北端に位置し、地形は概して小皺曲の多い丘陵性であるが、急峻な山岳はなく、最高地点も283mに過ぎない。河川は湊川を最長として、甲女川、川脇川があるが、他は極めて小さな河川でわずかに灌漑用に利用されるのもである。

今回の調査によって10の遺跡が新たに追加された。

西之表市の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	採集遺物	時期	備考
1	塔之原遺跡	西之表市西之表塔之原	海岸段丘	叩石・染付	縄文・室町	
2	榎迫遺跡	〃 〃	台地	縄文土器	縄文	
3	長深田遺跡	〃 〃	〃	成川式土器	古墳	
4	峰ノ園遺跡	〃 〃 峰ノ園	〃	縄文土器	縄文	
5	大宮田A遺跡	〃 〃 大宮田	〃	成川式土器	古墳	
6	大宮田B遺跡	〃 〃	〃	〃	〃	
7	深田遺跡	〃 〃	〃	〃	〃	
8	一ノ鳥居遺跡	〃 息長野一ノ鳥居	砂丘	縄文土器	縄文	集石
9	池ノ窪遺跡	〃 西之表池之窪	〃	〃	〃	
10	松原遺跡	〃 〃 松原	〃	縄文土器・染付	縄文・室町	

西之表市採集遺物一覧

遺跡名	番号	器種	備考	遺跡名	番号	器種	備考
塔之原遺跡	1	叩石	砂岩	一ノ鳥居遺跡	4	土器	
〃	2	染付		〃	5	〃	指宿式
榎迫遺跡		土器	縄文式土器	〃	6	〃	縄文圧痕の底部
長深田遺跡		〃	成川式土器	〃		〃	縄文土器
峰ノ園遺跡		〃	縄文式土器	〃		染付	底部
大宮田A遺跡		〃	成川式土器	〃		青磁	口縁
〃		剥片	チャート	〃		剥片	粘板岩
大宮田B遺跡		土器	成川式土器	〃		石斧	砂岩、刃部破片
深田遺跡	7	〃	成川式土器 貼付突帯	池之窪遺跡		土器	縄文土器
〃		〃	成川式土器	松原遺跡		〃	縄文土器
一ノ鳥居遺跡	1	〃	市来式、口縁	〃		青磁	
〃	2	〃	〃 〃	〃		染付	2点
〃	3	〃	〃 〃	〃		陶器	

1 塔ノ原遺跡 (とうのはら) (西之表市西ノ表塔ノ原)

(1) 立地

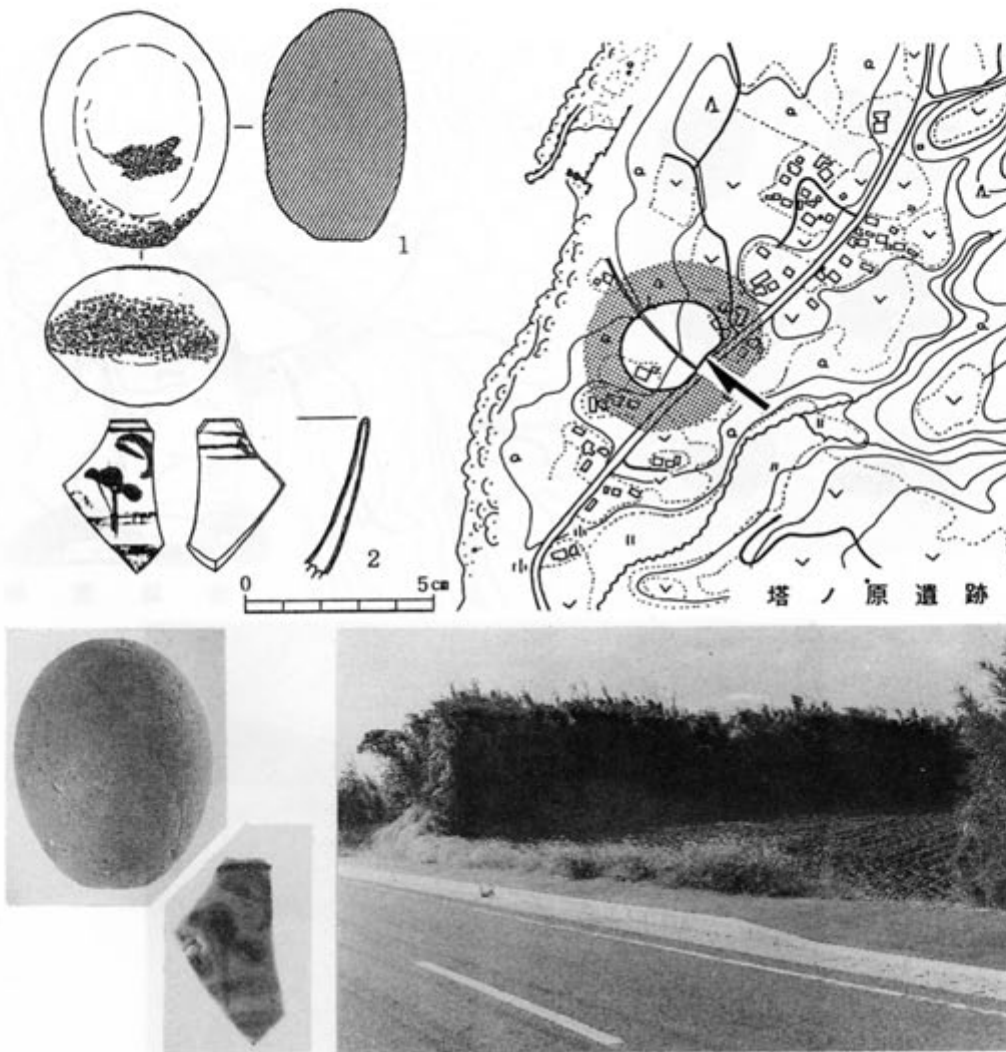
塔ノ原遺跡は、西海岸沿いの標高約20mの海岸段丘に所在する。県道伊関～国上線と隣接する。当遺跡の西側は緩やかに傾斜して縁辺部で急崖となり花里崎漁港へと続き、南側は台地が下降し、東側は塔ノ脇川が南流して小谷が形成され、南に延びた台地となる。なお、当遺跡の周辺には花里崎I遺跡があることになっているが、場所が確認できず重複する可能性もあり、一応、塔ノ原遺跡として銘記した。

(2) 時代

縄文時代、室町時代

(3) 遺物

1は砂岩製のタタキ石である。2は染付けの碗形土器の口縁部片である。



2 複迫遺跡 (えのきざこ) (西之表市西之表複迫)

(1) 立地

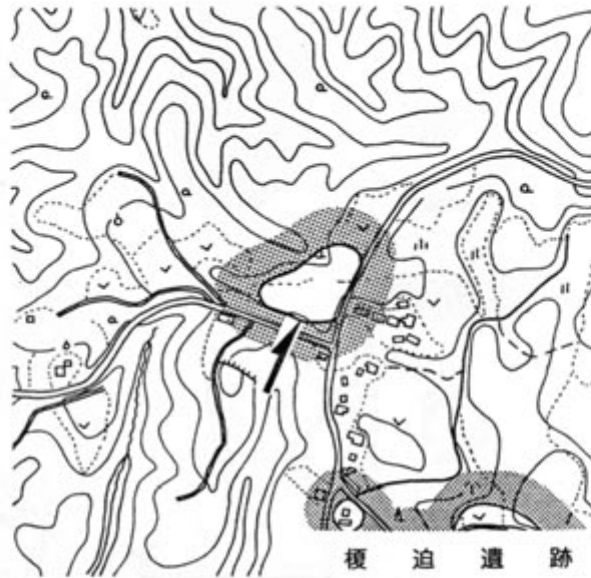
複迫遺跡は、大花里集落から西京ダムへ向かう三叉路の西側、標高90mの山間に開析された畑地に所在する。畑地開墾や耕作によりクロスナやアカホヤ層が露呈している箇所もみられ、遺物包含層は部分的に破壊を受けている可能性がある。縄文土器片6点を採集した。

(2) 時代

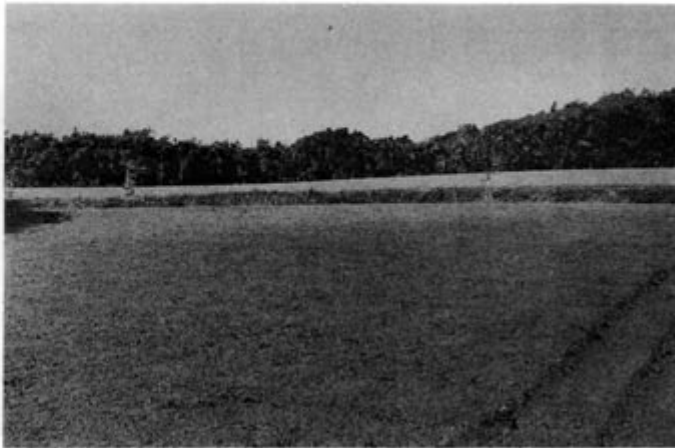
縄文時代

(3) 遺物

いずれも内面・外面ともに貝殻状痕文を施している。小片のため、器形は定かではない。



複迫遺跡



3 長深田遺跡（ながふかだ）（西之表市西之表長深田）

(1) 立地

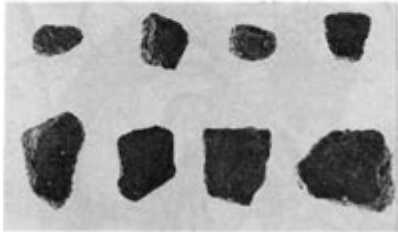
長深田遺跡は、柵ノ峰集落のはずれ弓矢八幡神社の境内に所在する。市街地に通じる道路面より一段高く標高約130mである。一部、参道断面に遺物包含層と思われる表層直下の褐色層から土器片を採集し、遺跡の範囲は神社境内内に限られる。なお、遺物が散布する神社の東側は一段低く、広場及びゲートボール場となっており、造成時に削平されている。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

刷毛目調整を施す土器である。小片のため、器形等は不明である。



4 峰ノ園遺跡 (みねのその) (西之表市西之表峰ノ園)

(1) 立 地

峰ノ園遺跡は、標高約120mで東に延びた丘陵の傾斜面に所在する。南東には長深田遺跡が位置する。調査時はサトウキビが繁茂し詳細な調査は困難であった。

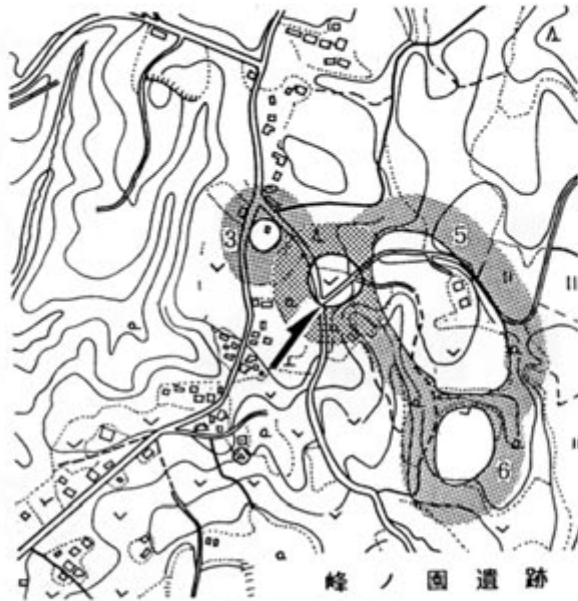
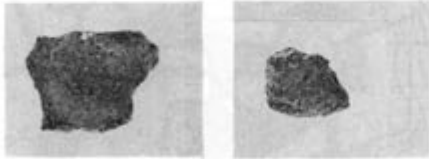
2個の土器片を採集した。

(2) 時 代

縄文時代

(3) 遺 物

小片のため、定かではないが、器面に貝殻調整痕が観察される。



5 大宮田A遺跡（おおみやたA）（西之表市西之表大宮田）

(1) 立地

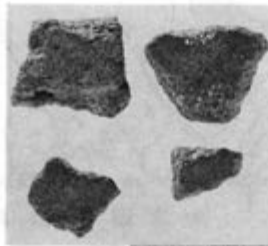
大宮田A遺跡は、北・東・南の山間いの水田に囲まれた標高約80mの独立した南東に細長い丘陵に所在する。西側は、峰ノ園遺跡からの台地が小谷を隔てて連なる。屋敷畑でサトウキビが栽培されているが、遺物は広範囲に散布していると思われる。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

採集した土器は、小片のため器形等は定かではないが、貼付け凸帯を有する成川式土器やチャート製の剥片がある。



6 大宮田B遺跡（おおみやたB）（西之表市西之表大宮田）

(1) 立地

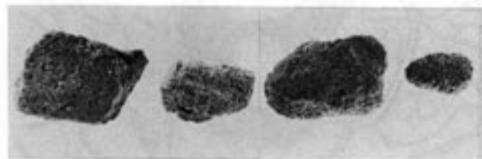
大宮田A遺跡の南側、凹地を隔てた丘陵先端部に所在する。大宮田A遺跡とほぼ同一の丘陵にあることから、2つの遺跡を大きくまとめることも可能か。遺跡の保存状態は良好といえる。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

成川式土器片を採集した。小片のため詳細は不明である。



7 深田遺跡（ふかだ）（西之表市西之表深田）

(1) 立地

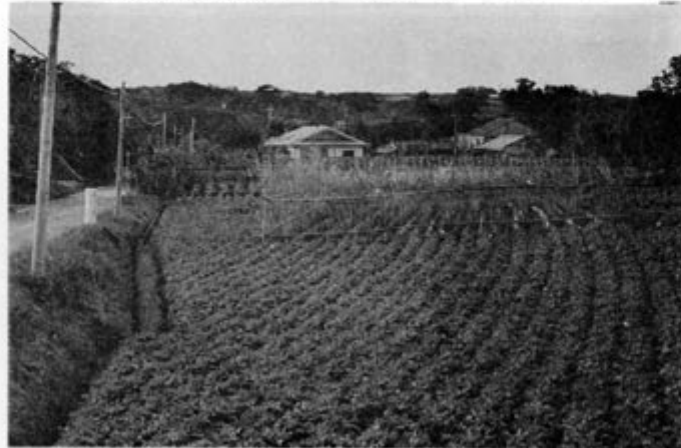
満徳橋を渡り東海岸の沖浜田へ通じる横山集落の南西に開析された山裾の丘陵地に所在する。標高は約60mである。丘陵地であることから段々畑となり、部分的に造成が行なわれていた。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

1は胴部に刻み目貼付け突帯を施す成川式の甕形土器片である。その他、胴部片が出土した。



8 一ノ鳥居遺跡 (いちのとりい) (西之表市西之表息長野一ノ鳥居)

(1) 立地

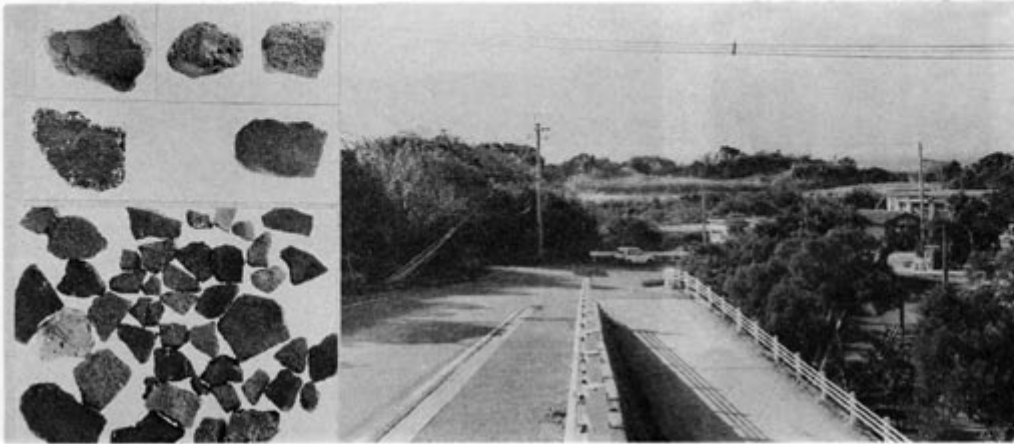
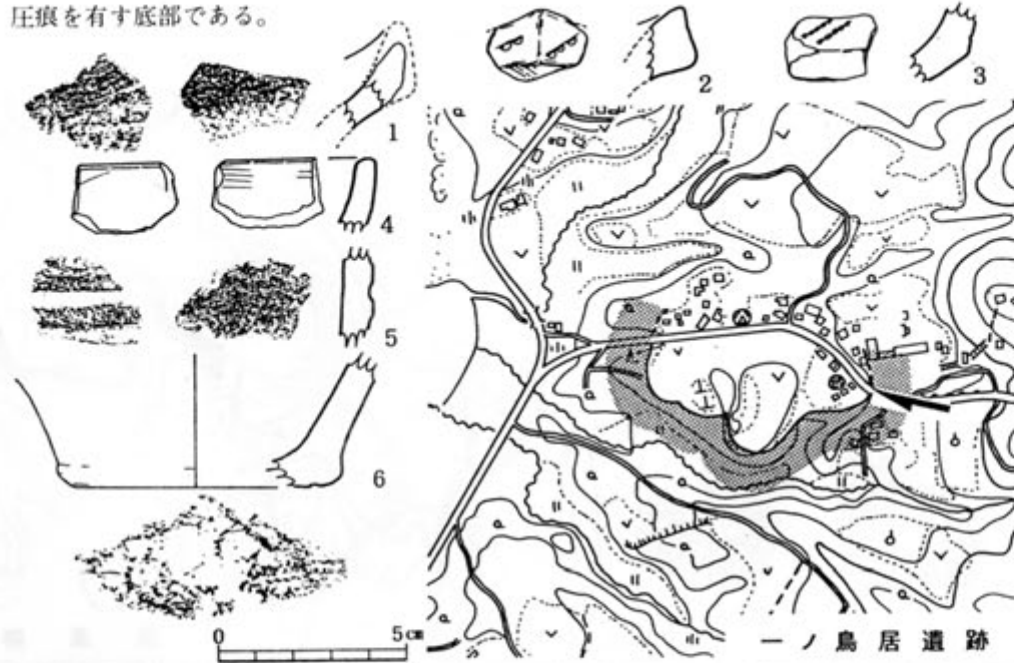
一ノ鳥居遺跡は、上西小学校の南西方向、小谷を隔てた大花里遺跡の西側標高約40mの砂丘地の南に面した畑地に所在する。地形は小高い丘陵で、南側は小川が流れ小谷が形成されている。遺物の散布状況は広範囲にみられる。畑の土手断面に集石と思われる遺構が露呈していた。

(2) 時代

縄文時代後期

(3) 遺物

1～3は市来式土器の口縁部、4は口縁部、5は指宿式土器系統の沈線文土器、6は縄目圧痕を有す底部である。



9 池之窪遺跡 (いけのくぼ) (西之表市西之表池之窪)

(1) 立 地

西海岸に突き出た標高約30mの砂丘に所在する。当砂丘地は山裾部にあたり、裾部を切り開いて畑地としている。西側は四番川が西流して小谷が形成されている。遺物は土手から採集したものである。

(2) 時 代

縄文時代後期

(3) 遺 物

2片の土器を採集した。小片のため詳細は不明であるが、細い沈線文を施す。



10 松原遺跡（まつばら）（西之表市西之表松原）

(1) 立 地

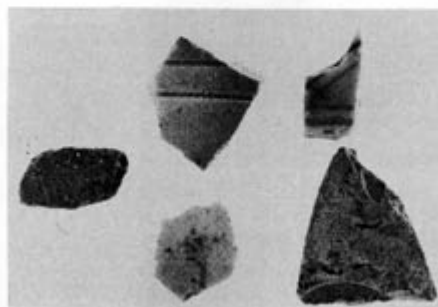
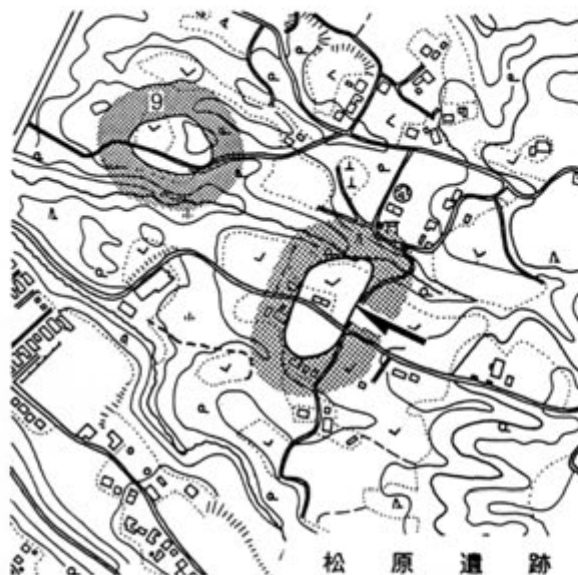
松原遺跡は、四番川を狭んで池之窪遺跡と対面、西に延びた丘陵台地に所在する。南側には一番川が流れ小谷が形成されている。

(2) 時 代

縄文時代、室町時代

(3) 遺 物

縄文土器片、染付け碗、陶器片がある。



第2節 中種子町

中種子町は、種子島本島の中央部を占める。町の北側で最高部の標高約282mの高地がありその周りには開析された段丘や台地が発達している。中間部は急崖を持たないで、東・西海岸の両方に緩やかに高さを減じて海拔200~100m前後の平頂な峰が連なり、南は適度に開析された台地からなっている。台地縁辺部は海岸線まで迫り、急崖な段丘崖あるいは海食台地が形成されている。海岸線は砂浜で砂丘が形成されている。集落は海岸や段丘上に営まれ、海退か陸地の上昇によってできた溺れ谷は水田耕作が最大限に利用されている。

中種子町の主要な遺跡としては、縄文早期~前期の千草原遺跡や苦浜貝塚、後期の浅川牧遺跡、晩期の一陣貝塚、弥生前期の埋葬遺跡である広田遺跡、中・後期の埋葬遺跡である鳥ノ峰遺跡等44の遺跡が存在し、南西諸島における先史時代の重要な場所といえる。

今回の調査により新たに7の遺跡が追加された。

中種子町の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	採集遺物	時期	備考
1	野間太郎坊遺跡	中種子町野間太郎坊	台地	須恵器・青磁	室町	
2	下ノ園遺跡	〃 増田下ノ園	砂丘	縄文土器青磁土師器成川式土器	縄文・古墳・室町	
3	中平地遺跡	〃 中平地	台地	縄文土器	縄文	
4	下ノ平遺跡	〃 下ノ平	〃	縄文土器・磨石・石斧	〃	
5	壺里塚遺跡	〃 増田壺里塚	〃	縄文土器	〃	
6	梶ノ本遺跡	〃 梶ノ本	〃	縄文弥生石斧石皿磨石	縄文・弥生	
7	本願寺遺跡	〃 本願寺	〃	縄文土器	縄文	

中種子町採集遺物一覧

遺跡名	番号	器種	備考	遺跡名	番号	器種	備考
野間太郎坊遺跡	1	須恵器		梶ノ本遺跡	4	土器	市来式・口縁
〃		〃	口縁	〃	5	〃	成川式
〃	3	青磁	〃	〃	6	〃	鐘ヶ崎式
〃	4	〃	〃	〃	7	〃	弥生式土器・底部
〃	2	土師器		〃	8	石斧	砂岩
下ノ園遺跡	1	青磁碗	口縁	〃	9	〃	粘板岩
〃	2	土器	縄文式土器	〃	10	〃	安山岩
〃	3	土師器	縄文式土器・底部	〃	11	〃	砂岩
〃		土器	縄文式土器	〃	12	〃	安山岩
〃		〃	13点	〃	13	〃	砂岩
〃		青磁		〃	14	〃	〃
中平地遺跡	1	土器	前平式	〃	15	〃	粘板岩
〃		〃	縄文式土器・4点	〃	16	磨石	砂岩
下ノ平遺跡	1	〃	縄文式土器・貝殻条痕	〃	17	台石	〃
〃	2	石皿	半次・砂岩	〃		石斧	安山岩
〃	3	叩石	砂岩	〃		〃	粘板岩・刃部欠
〃		叩石	砂岩	〃		〃	〃
壺里塚遺跡	1	土器	塞之神式	〃		石皿	砂岩・破片
〃		〃	縄文式土器・2点	本願寺遺跡	1	土器	縄文式土器・貝殻条痕
〃		剝片	黒曜石	〃	2	〃	
梶ノ本遺跡	1	土器	指宿式・口縁	〃	3	〃	
〃	2	〃		〃	4	〃	
〃	3	〃		〃			

1 野間太郎坊遺跡 (のまたろうぼう) (中種子町野間太郎坊)

(1) 立地

野間太郎坊遺跡は、東海岸寄りの中山集落の屋敷畑に所在する。標高約70mの西に開けた台地中央部にあたる。比較的広い台地で台地西側縁辺部は急崖となり、南側は中山川が東流して浸食谷が形成されている。

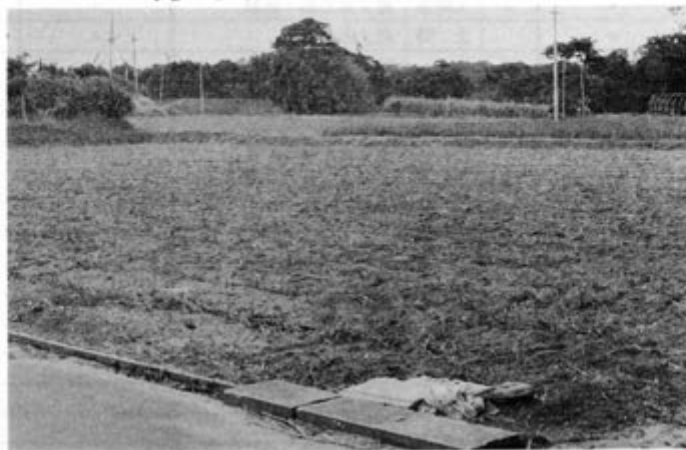
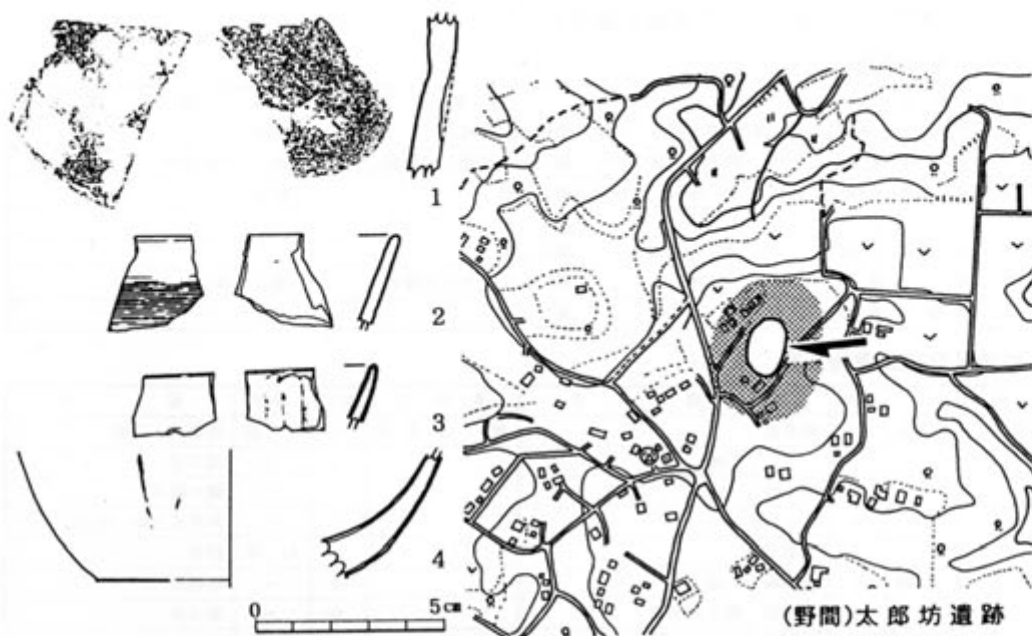
(2) 時代

室町時代

(3) 遺物

1・2は須恵器である。2は焼成は軟弱で、色調は褐色を帯びている口縁部片である。

3・4は陰刻で細い鑄文を施す青磁の碗型土器片である。



2 下ノ園遺跡 (しものその) (中種子町増田下ノ園)

(1) 立地

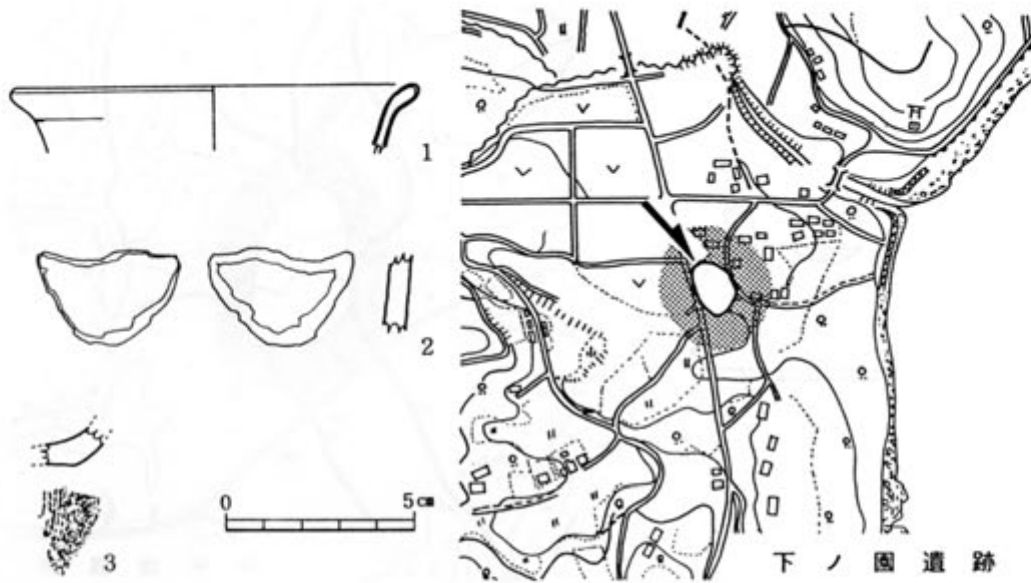
下ノ園遺跡は、増田小学校の手前、海岸線より約200m程内陸部の標高約8mの砂丘地である屋敷畑に所在する。畑一面から土器を採集した。耕作により一部遺物包含層は攪乱を受けている可能性もあるが、全体的に遺跡の保存は良好といえる。

(2) 時代

縄文時代、古墳時代、平安時代

(3) 遺物

1は縄文式土器片、2は青磁の碗の口縁部片、3は糸切り底の底部片、その他、成川式土器片も採集した。



3 中平地遺跡 (ちゅうへいじ) (中種子町増田中平地)

(1) 立地

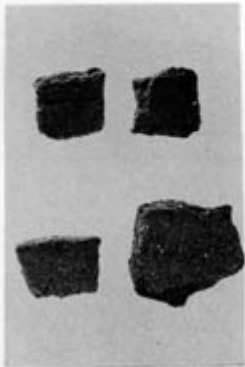
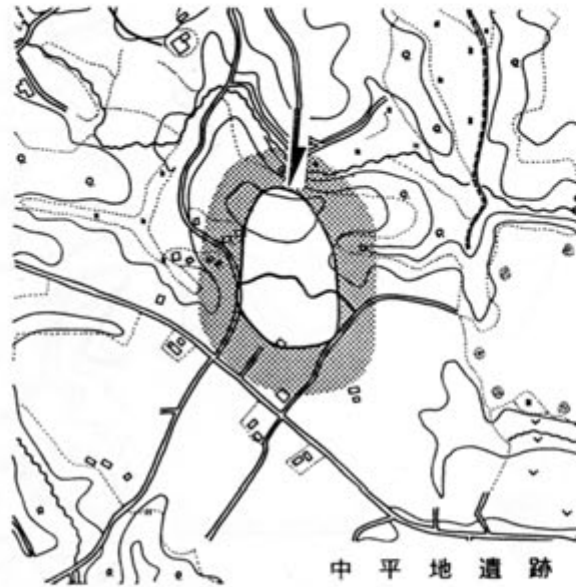
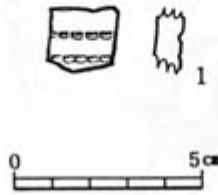
中平地遺跡は、中種子カントリークラブの西側標高約180mの小高い丘陵に所在する。遺跡周辺が最も高く四方に緩やかに傾斜する地形である。現在、畑地や樹木の植栽地である。採集遺物は量的には少ないが広範囲にわたって分布する。遺跡の保存状態も良好といえる。

(2) 時代

縄文早期

(3) 遺物

1は貝殻刺突を施す土器片である。その他、小片の縄文土器片がある。



4 下ノ平遺跡 (しものひら) (中種子町増田下ノ平)

(1) 立 地

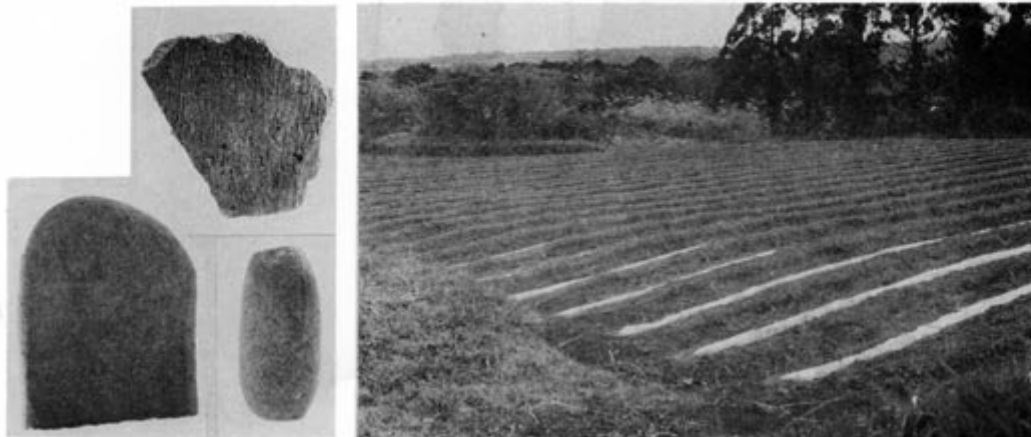
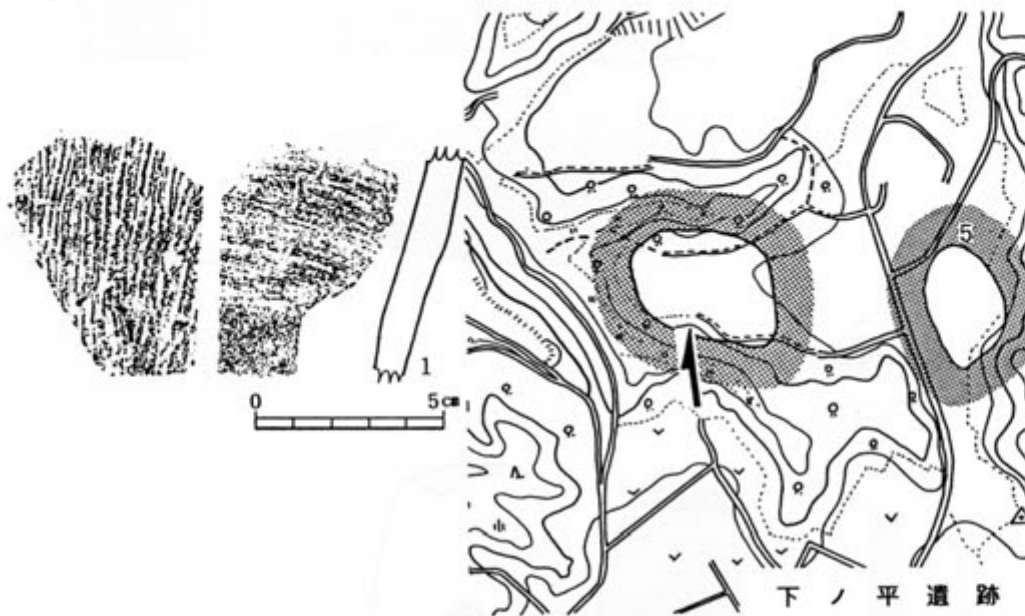
下ノ平遺跡は標高約110mの西に突き出た舌状台地の先端部に所在する。北・西・南側は緩い崖となり溺れ谷が形成された谷間が狭い水田地となる。遺物包含層と思える黒褐色層が地表面に一部露呈しているが、遺跡の立地や遺物採集状況から遺跡の保存は良好といえる。

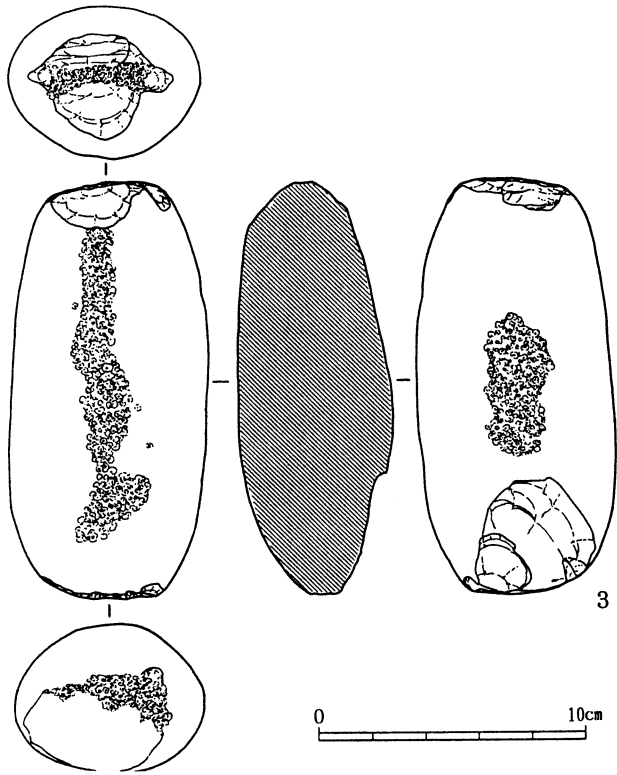
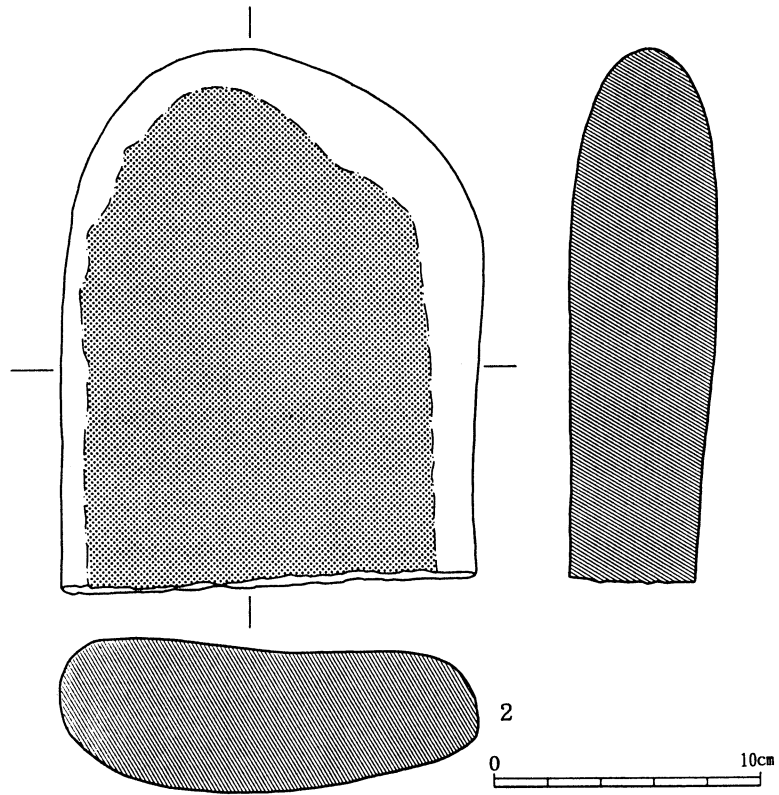
(2) 時 代

縄文時代後期

(3) 遺 物

1は貝殻状痕文を施す胴部片である。2は砂岩製の自然石を利用した石皿、3は砂岩製の凹石併用の両端に使用痕を有すタタキ石である。その他、縄文土器片やタタキ石が表採された。





下ノ平遺跡採集遺物

5 老里塚遺跡 (いちりづか) (中種子町増田老里塚)

(1) 立地

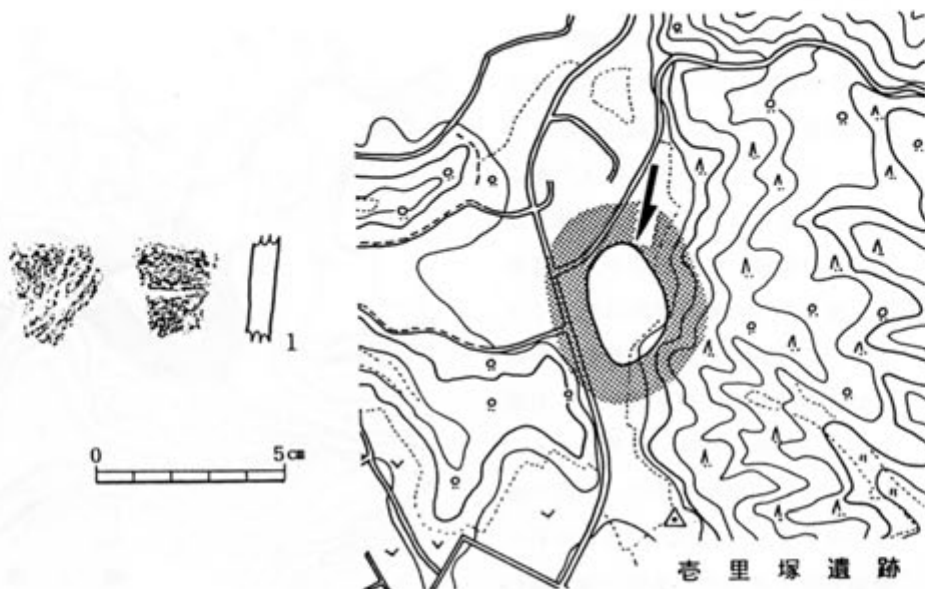
老里塚遺跡は下ノ平遺跡と道路を隔てた標高約 115 m の東に面した台地先端部に所存する。台地は海岸段丘の縁辺部にあたり先端部から急崖となって大塩谷港のある太平洋に続く。

(2) 時代

縄文早期

(3) 遺物

1 は沈線文に囲まれた縄文を施す塞ノ神式土器片である。



6 梶ノ本遺跡 (かじのもと) (中種子町増田梶ノ本)

(1) 立 地

梶ノ本遺跡は秋佐野集落にあり、標高約120mの南に延びた狭い舌状台地の先端部の畑地にあたる。西側は向井川によって形成された急崖な谷となる。調査時は遺物は表採されなかったが、長年にわたる耕作によって多数量の土器や石器が採集されている。なお、畑地の北側の杉林は遺跡の保存が良好と思われる。

(2) 時 代

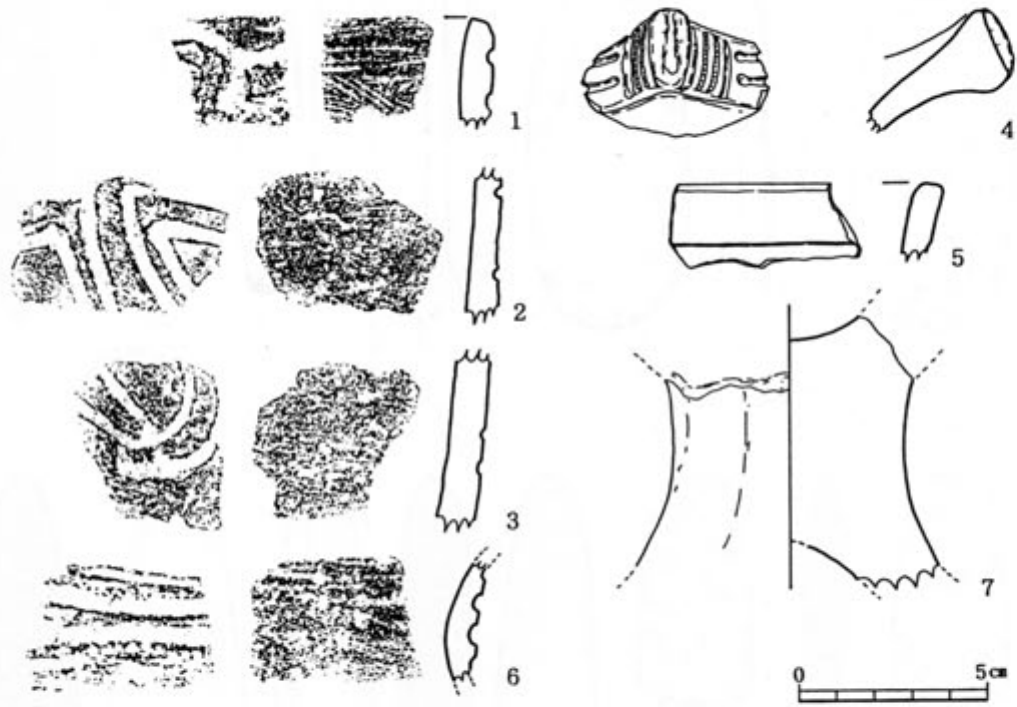
縄文後期・弥生中期

(3) 遺 物 (地主宇都市哉氏コレクション)

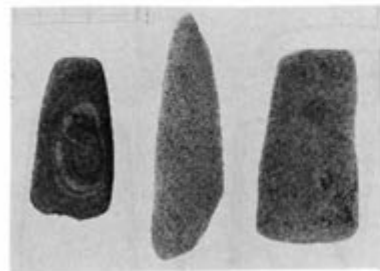
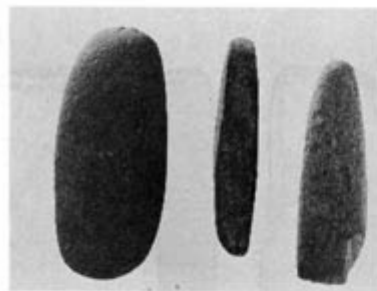
1～3は沈線文を施す指宿式土器、4は市来式土器、6は磨消縄文の鐘ヶ崎式土器、7は充実した弥生後期の底部である。石器には、打製・磨製石斧(ノミ)、石皿、磨石、タタキ石がある。

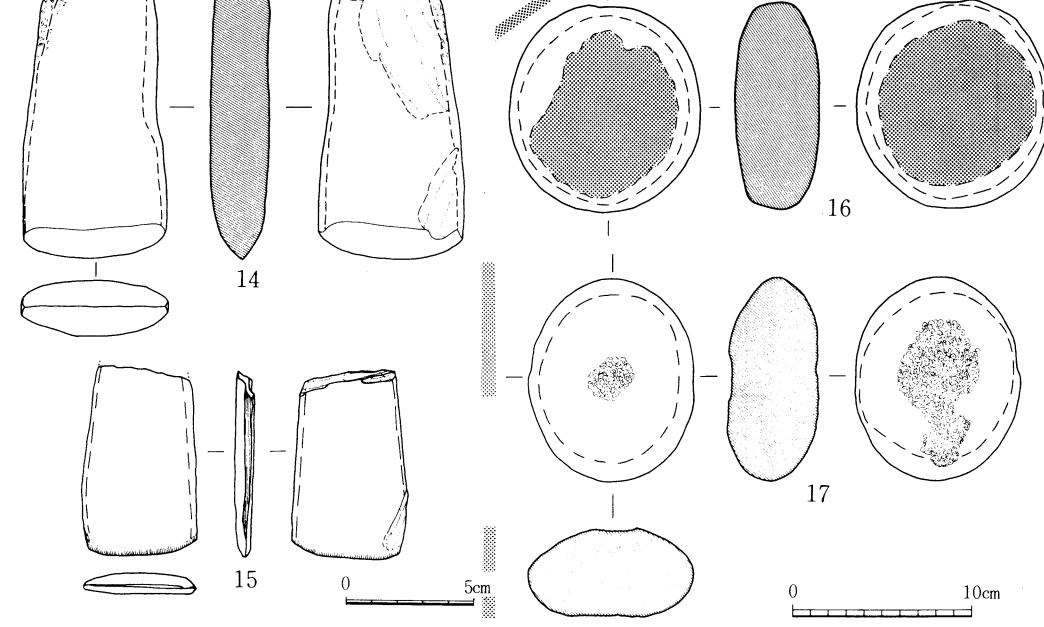
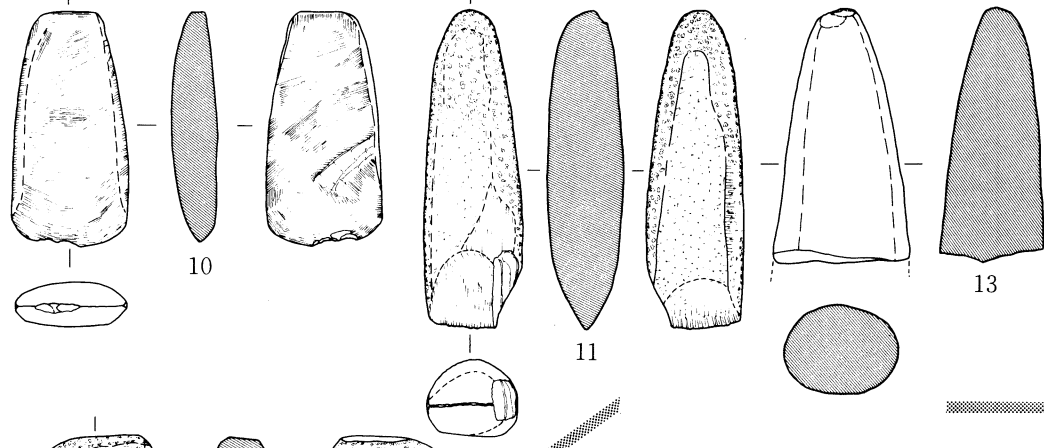
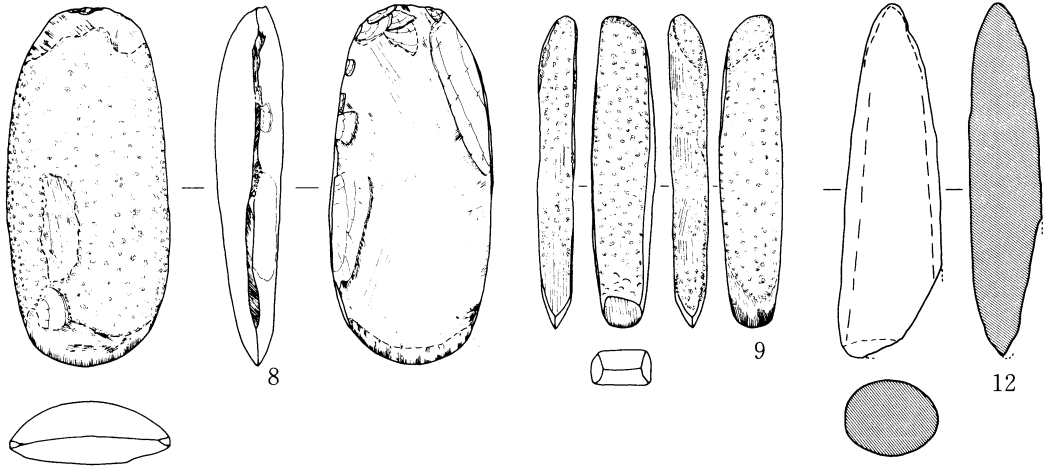
8は礫皮面を残す砂岩の剥片を素材とする磨製石斧で、刃部の研磨は特に顕著で、側面の面取りの研磨もみられる。9は粘板岩の柱状の礫を素材とする鑿形の石斧で、刃部及び側面に研磨痕が見られるが、表裏面には風化のためか研磨痕は観察できない。11は砂岩の磨製石斧で、全面に顕著な研磨痕が観察される。刃部の斜・横の擦痕が特に顕著である。12は安山岩の磨製石斧で、刃部の潰れが著しい。10・13・14は安山岩の磨製石斧であるが、風化が強く敲打痕・研磨痕とも観察できない。また、15は粘板岩の磨製石斧で、刃部及び側面の両取りの研磨痕が微かに残る。16・17は砂岩の擦石・台石で、擦痕・敲打痕が良く観察できる。





梶ノ本遺跡採集遺物





7 本願寺遺跡 (ほんがんじ) (中種子町増田本願寺)

(1) 立地

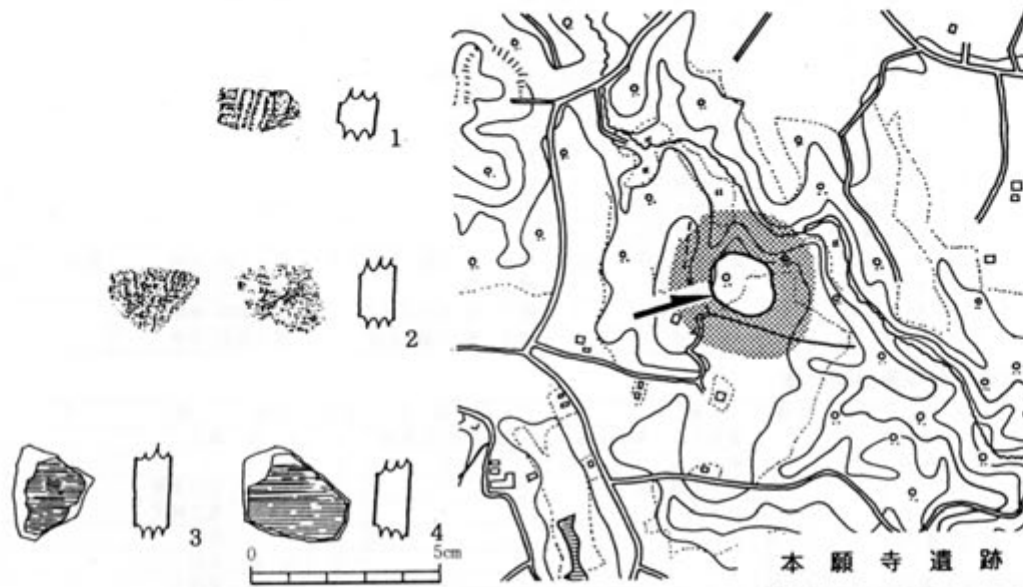
本願寺遺跡は標高約 170 m の平坦な台地の北側縁辺部に所在する。台地の北・東に上川が西に沸川が南流する。

(2) 時代

縄文時代

(2) 遺物 (3)

1～4 は貝殻条痕文を施す土器片である。小片のため詳細は不明である。



第3節 南種子町

南種子町は種子島の南部のほぼ1/3を占め、北が中種子町と接するほかは、太平洋・東シナ海に囲まれている。地形は全体的に緩やかな傾斜の丘陵地で、島間から門倉岬にかけての西海岸は海岸段丘が良く発達し、門倉岬から竹崎にかけての南海岸は新旧の砂丘とその背後には沖積平野が見られ、竹崎から浜田にかけての東海岸は丘陵が急崖をなして海に面している。

調査は11月4日から11月7日までと11月27までの計5日間で行ない、新たに13か所の遺跡を発見した。

西海岸沿いは今回の調査対象外であり、西・東海岸沿いを主に調査したが、遺跡の多くは丘陵地の開析谷沿いと新旧の砂丘上に発見された。

南種子町の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	採集遺物	時期	備考
1	銭亀遺跡	南種子町西之銭亀	台地	無	縄文早期	
2	駒取野遺跡	〃 西之駒取野	〃	縄文土器	〃	
3	安久保遺跡	〃 西之安久保	〃	〃	〃	
4	西之大宮田遺跡	〃 西之大宮田	砂丘	染付・土師器	中世	
5	真所汐入遺跡	〃 中之下東真所汐入 〃 西真所汐入	〃	染付・青磁 白磁土師器	〃	
6	上松原汐入遺跡	〃 基永上松原汐入	〃	製塩土器	〃	
7	松原山遺跡	〃 〃 松原山	〃	台石	不明	
8	友心汐入A遺跡	〃 〃 友心汐入	〃	土師器	中世	
9	友心汐入B遺跡	〃 〃 友心汐入	〃	〃	〃	
10	赤石牟田遺跡	〃 長谷赤石牟田	台地	縄文土器・石匙・石鏃・石斧	縄文早期・前期	集石
11	福ヶ野A遺跡	〃 平山福ヶ野	〃	縄文土器	縄文時代	
12	福ヶ野B遺跡	〃 〃 福ヶ野	〃	縄文土器・成川式土器	縄文前期・後期・古墳	
13	上平遺跡	〃 〃 上平	〃	縄文土器・石鏃・青磁	縄文前期・中世	

南種子町採集遺物一覧

遺跡名	番号	器種	備考	遺跡名	番号	器種	備考
銭亀遺跡			遺物なし・集石1基	赤石牟田遺跡	5	土器	竊式
駒取野遺跡	1	土器	前平式	〃	6	〃	〃
〃		〃	縄文土器4点	〃	7	〃	刻目突帯
安久保遺跡	1	〃	吉田式	〃	8	〃	塞之神式
大宮田遺跡	1	染付碗	完形	〃	9	〃	底部
〃		土師器	2点	〃	10	石匙	貝岩
真所汐入遺跡	1	染付碗		〃	11	石鏃	黒曜石
〃	2	青磁碗		〃	12	〃	〃
〃	3	染付碗		〃	13	〃	〃
〃	4	白磁皿	底部	〃		土器	21点
〃		土師器	2点	〃		剝片	黒曜石17点
〃		青磁		〃		〃	砂岩・粘根岩等10点
上松原汐入遺跡		土師器	2点	〃		磨石	2点
松原山遺跡	1	叩石	砂岩	〃		叩石	
〃		土器		福ヶ野A遺跡		土器	縄文土器
友心汐入A遺跡	1	土師器	口縁	福ヶ野B遺跡	1	〃	曾畑式
〃	2	〃	底部	〃	2	〃	〃
〃		〃		〃	3	〃	〃
友心汐入B遺跡	1	〃	口縁	〃		〃	縄文土器10点
〃		〃	4点	〃		剝片	黒曜石
〃		青磁		上平遺跡	1	石鏃	貝岩
赤石牟田遺跡	1	土器	曾畑式	〃	2	青磁	陵花皿・口縁
〃	2	〃	〃	〃	3	土器	縄文土器
〃	3	〃	〃	〃	4	〃	〃
〃	4	〃	竊式	〃		〃	〃 10点
〃				〃		土師器	

1 銭亀遺跡（ぜにがめ）（南種子町西之銭亀）

(1) 立地

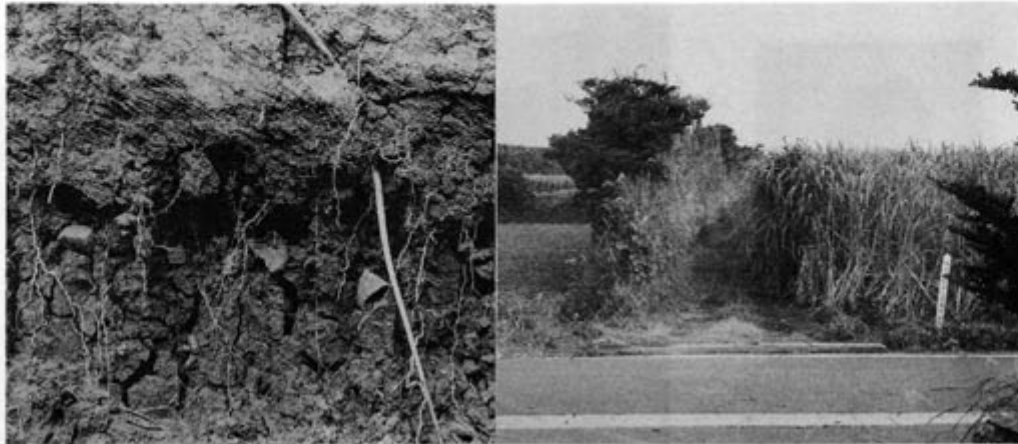
銭亀遺跡は、門倉岬から奥に入った所、崎原集落の北にある。門倉岬は段丘崖が直接海に落ち込む地形であるが、岬の平坦面の奥には、それより一段高い段丘面があり、銭亀遺跡の立地するのは、この高いほうの段丘面である。遺跡の北にやや大きな谷が入り込むほかは、周囲は平坦な段丘面が広がる。遺跡の標高は約80mである。

(2) 時代

縄文時代早期

(3) 遺物等

地下げの行なわれた畑の境に、幅1mの土手が残されており、この土手の断面に集石遺構が見えている。この集石はブロック状のアカホヤ層に覆われており、縄文時代早期のものと判断される。なお、土器・石器などの遺物は発見できなかったが、地下げしてある周囲の畑に包含層が残存している可能性もある。



2 駒取野遺跡（こまとりの）（南種子町西之駒取野）

(1) 立地

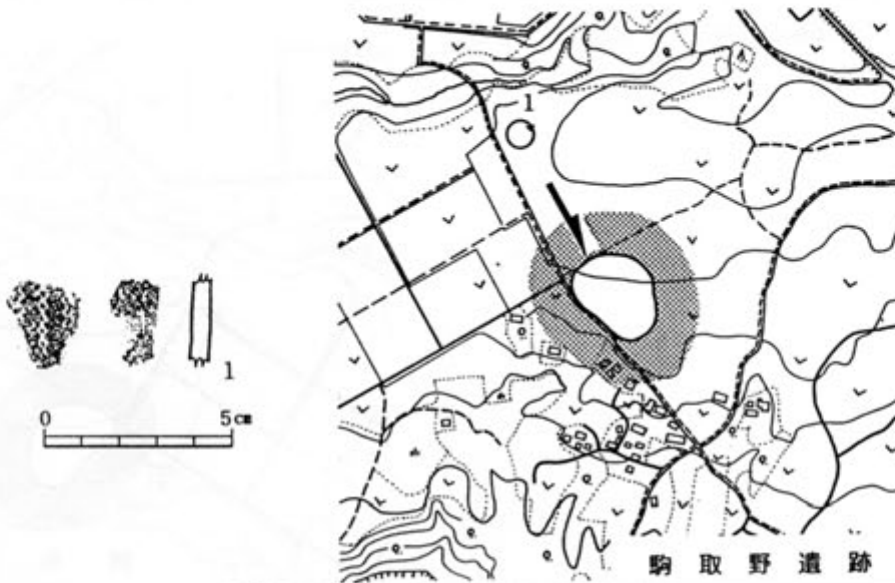
駒取野遺跡は、銭亀遺跡と同一の段丘面、銭亀遺跡から約50m離れた崎原集落の北東にある。遺跡は高位段丘の縁辺にあり、その南・西に、崎原集落の位置する下位の段丘面が広がり、門倉岬一带の景観を形作っている。遺跡の標高は約80mである。

(2) 時代

縄文時代早期

(3) 遺物

42は前平式の角筒土器で、縦位の貝殻腹縁圧痕文が観察される。そのほかの土器片も貝殻条痕のあるもの等、いずれも縄文時代早期のものと思われる。



3 安久保遺跡（やすくぼ）（南種子町西之安久保）

(1) 立地

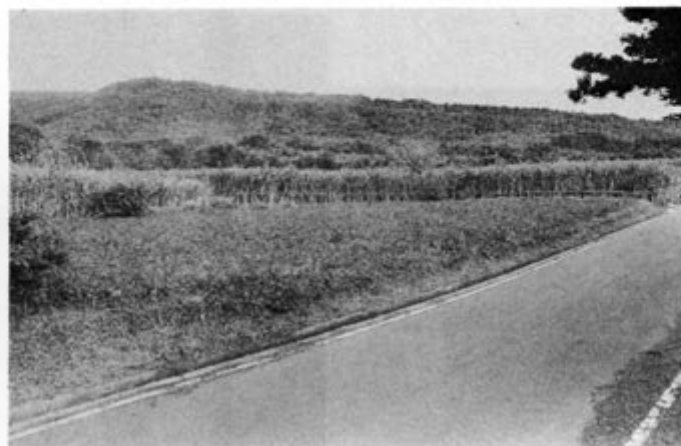
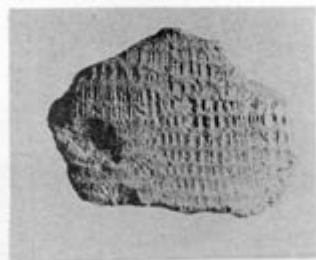
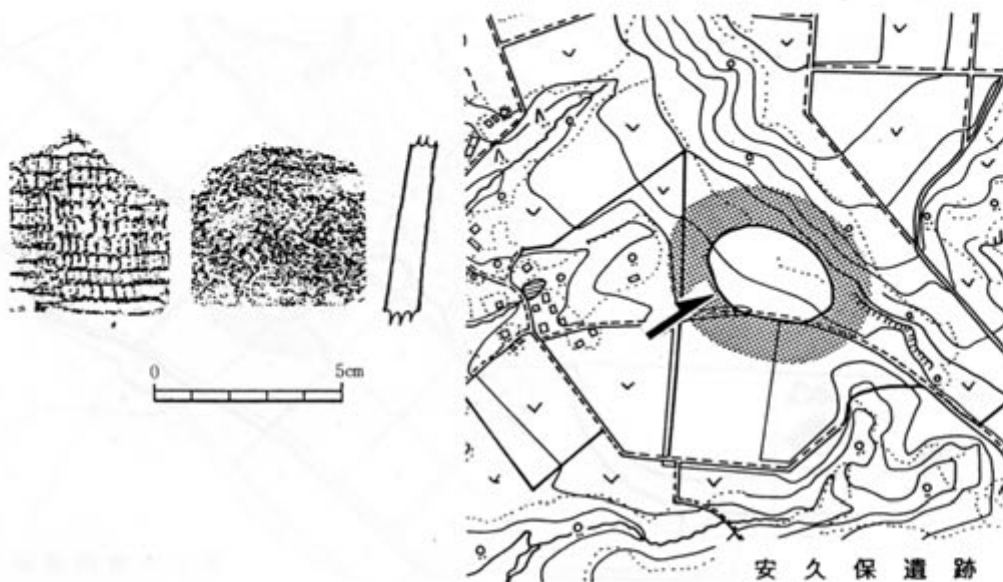
錢亀遺跡・駒取野遺跡と同一と思われる段丘面にあるものの、より内陸に入っており、背後は一段高い段丘の段丘崖であり、この段丘崖とそこから発する二本の小谷によって、周囲の平坦面から区切られている。標高は約85mである。

(2) 時代

縄文時代早期

(3) 遺物

1は縄文時代早期の吉田式土器の胴部破片である。貝殻腹縁の押し引き文が施され、胎土には石英・雲母・輝石等を含んでいる。



4 西之大宮田遺跡 (にしのおおみやた) (南種子町西之大宮田)

(1) 立地

西之大宮田遺跡は、門倉岬から竹崎にかけての長大な砂丘の背後の沖積低地にある。遺跡の立地する場所は周囲の田の面から1mほど高くなった自然堤防状の高まりであり、現在は集落が営まれている。

周辺は潟湖が陸化した地形であり、陸化まもなくここに遺跡が成立したのではないかと思われ、中世以降の新田開発を考えるうえで興味深い遺跡である。標高は約10mである。

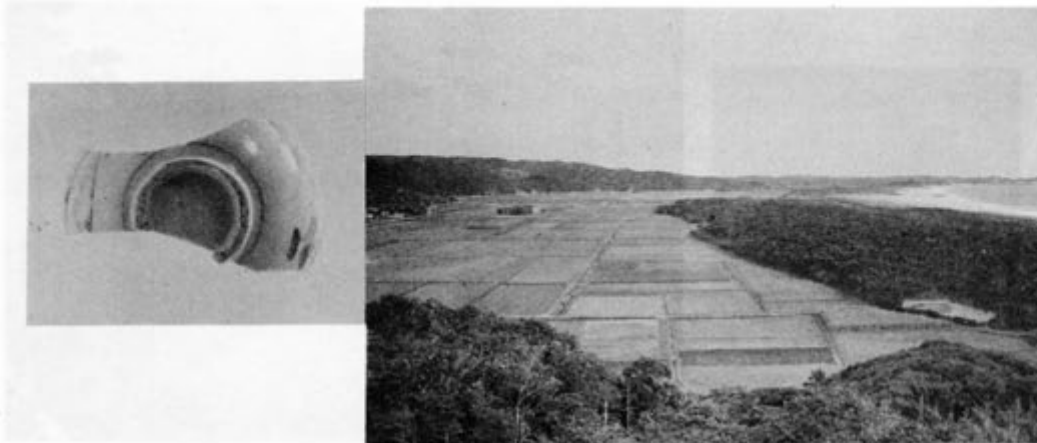
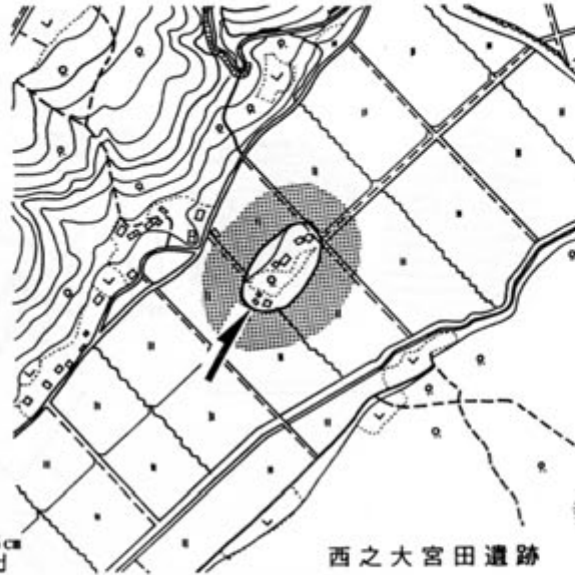
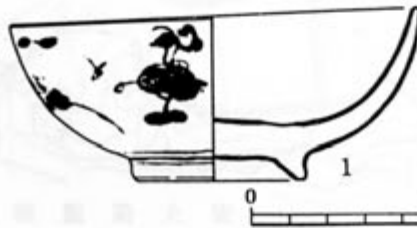
なお、今回の調査で西之表市内に「大宮田遺跡」を発見したので、同じ島内であることから大字「西之」を冠して遺跡名とした。

(2) 時代

中世 (15~16世紀)

(3) 遺物

1は口はげの染付け碗で、呉須の草花文が描かれている。他に土師器片を採集している。



5 真所汐入遺跡 (まどころしおいり) (南種子町中之下東真所汐入及び西真所汐入)

(1) 立地

西之大宮田遺跡と同様な地形の所に立地しているが、ここの自然堤防状の高まりの方が周囲との比高も大きく、かつより広く、東端で現在の砂丘と接している。

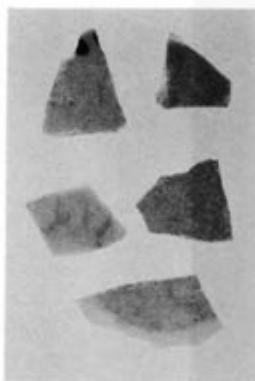
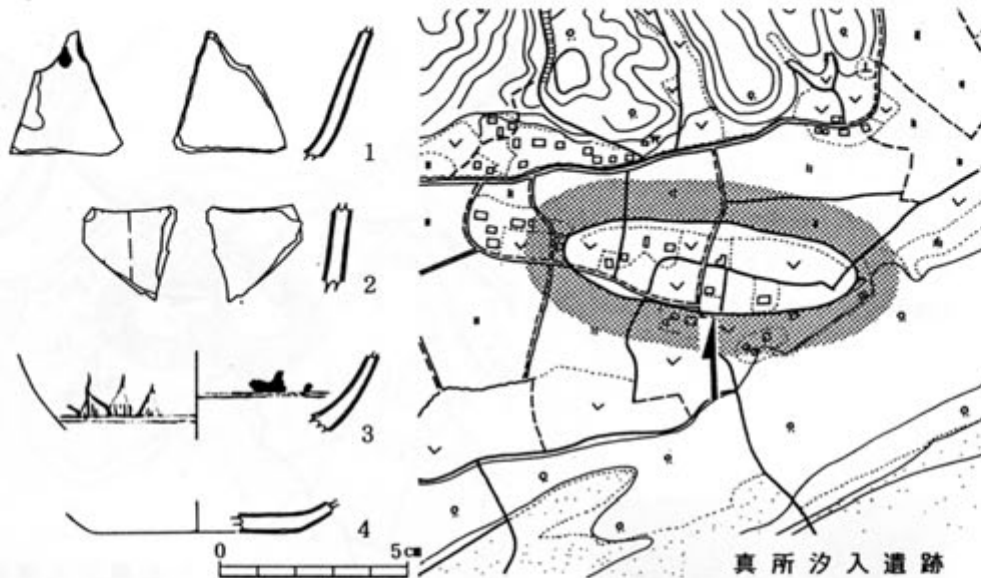
また、採集遺物も西之大宮田遺跡と同様なものであり、その時代・性格なども同じであると思われる。標高は約10mである。

(2) 時代

中世 (15~16世紀)

(3) 遺物

7・3は染め付けの碗かと思われるが、破片が小さく文様等ははっきりしない。2は青磁碗で、連弁が見られる。4は白磁の皿の底部と思われる。他にも、青磁・土師器片を採集している。



6 上松原汐入遺跡 (かみまつばらしおいり) (南種子町葦永上松原汐入)

(1) 立地

上里あたりから南流して太平洋に注いでいる宮瀬川の河口近くには、東南の季節風の影響で大きな砂丘が形成され、宝満池のような潟湖をも作っている。

上松原汐入遺跡はこの砂丘上に位置しており、他にも松原山遺跡・友心汐入A遺跡・同B遺跡などが同じ砂丘上に連なっている。これらの遺跡はいずれも内陸斜面で発見されたが、ほとんどは畑の開墾、もしくは砂取りによって崩された場所である。しかしながら、クロスナ層は法面でも上部が部分的に見られるだけで、現在の畑面の下に本来の包含層はまだ残っているのではないかと考えられた。

上松原汐入遺跡はこれら一連の遺跡の最西端にあたり、松原集落の背後、宝満池の東南にある。標高は約15mである。

(2) 時代

不明 (奈良・平安以降)

(3) 遺物

細かな布目圧痕のある製塩土器と思われる土器片1点と、それと同じような胎土・焼成の土器片1点の計2点の土器片を採集したが、どちらも微細な破片であり図化しなかった。



7 松原山遺跡 (まつばらやま) (南種子町葦永松原山)

(1) 立地

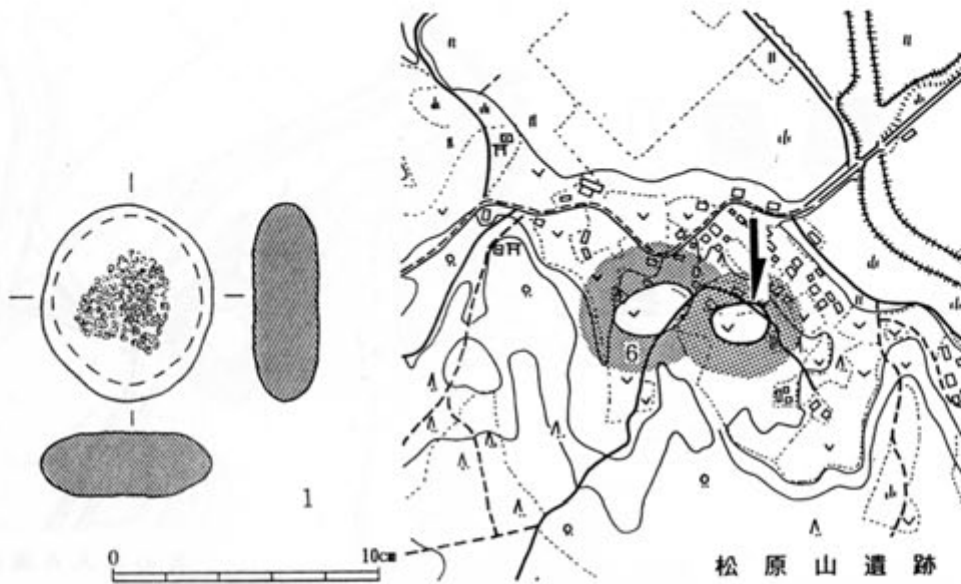
松原山遺跡は、上松原汐入遺跡の東南の小さな凹地を狭んだ所にあり、標高もほぼ同じで、他の立地環境も同じである。

(2) 時代

不明

(3) 遺物

1は砂岩の偏平な小礫を用いた台石で、上下の平坦面に敲打痕が残っている。他に、表面の剥落した土器片を採集したが、その形式・時代共に判別しがたい。



8 友心汐入A遺跡 (ゆうしんしおいり) (南種子町葦永友心汐入)

(1) 立地

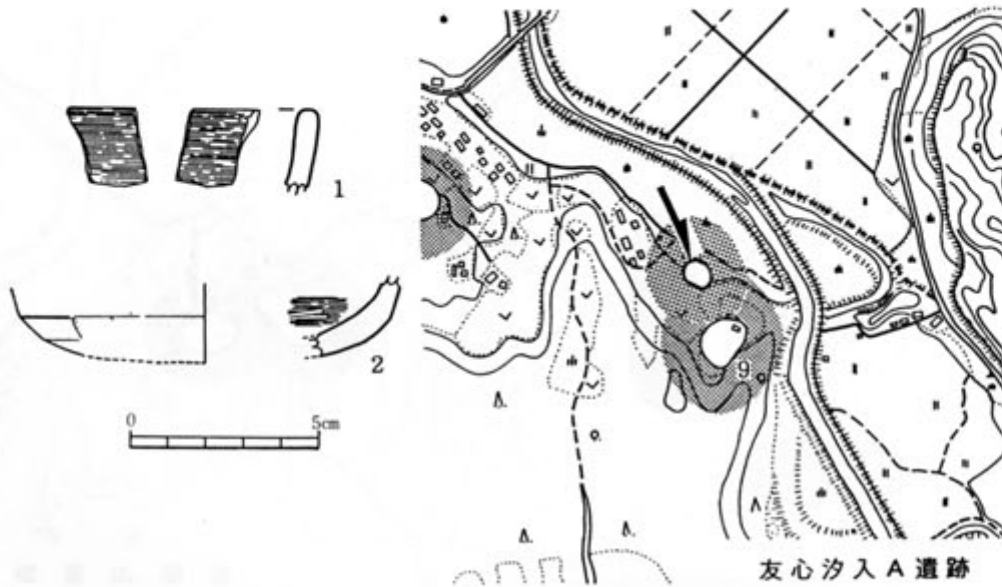
友心汐入A遺跡は、砂丘の裾部の沖積低地との境に近いところに立地しており、松原山遺跡から東南に約70m離れている。前面には宮瀬川が流れており、砂丘裾部の平坦面に遺物が散見され、背後は高い砂丘である。標高は約5mである。

(2) 時代

中世

(3) 遺物

1・2ともに土師器の碗である。1は水引きが残る口縁部で、2はヘラ起こしの底部である。胎土には、輝石・石英・長石の他に岩片を含み、堅緻な焼成である。



9 友心汐入B遺跡 (ゆうしんしおいりB) (南種子町基永友心汐入)

(1) 立地

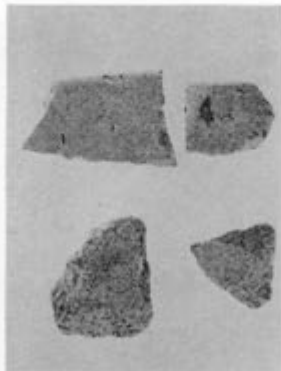
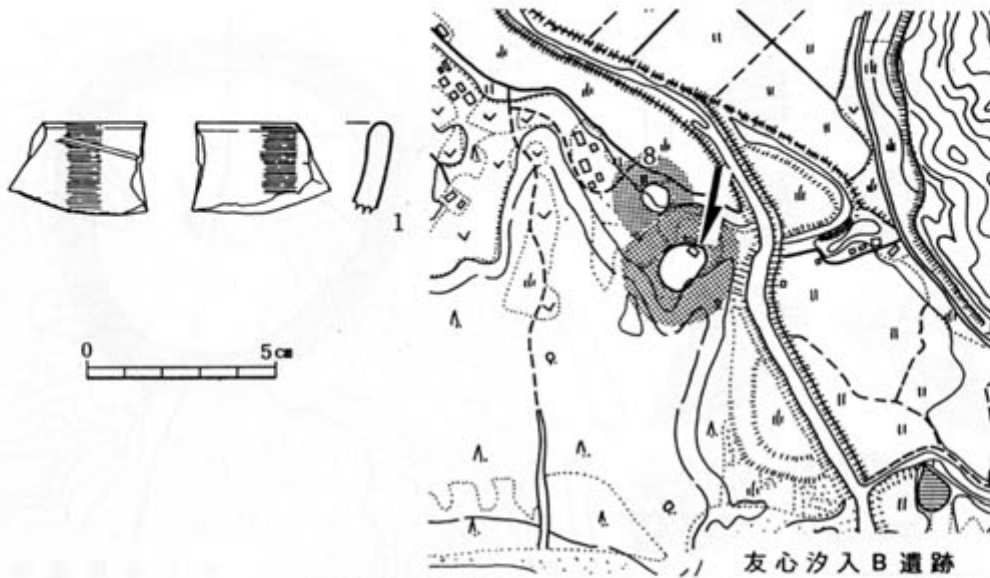
友心汐入B遺跡は、同A遺跡から約20m南に離れた、一段高い平坦面にあり、標高は約10mである。標高以外の立地環境は友心汐入A遺跡と同じである。

(2) 時代

中世

(3) 遺物

1は水引きが見られる土師器碗の口縁部片である。他には、より軟質な土師器片等を採集した。



10 赤石牟田遺跡（あかいしむた）（南種子町長谷赤石牟田）

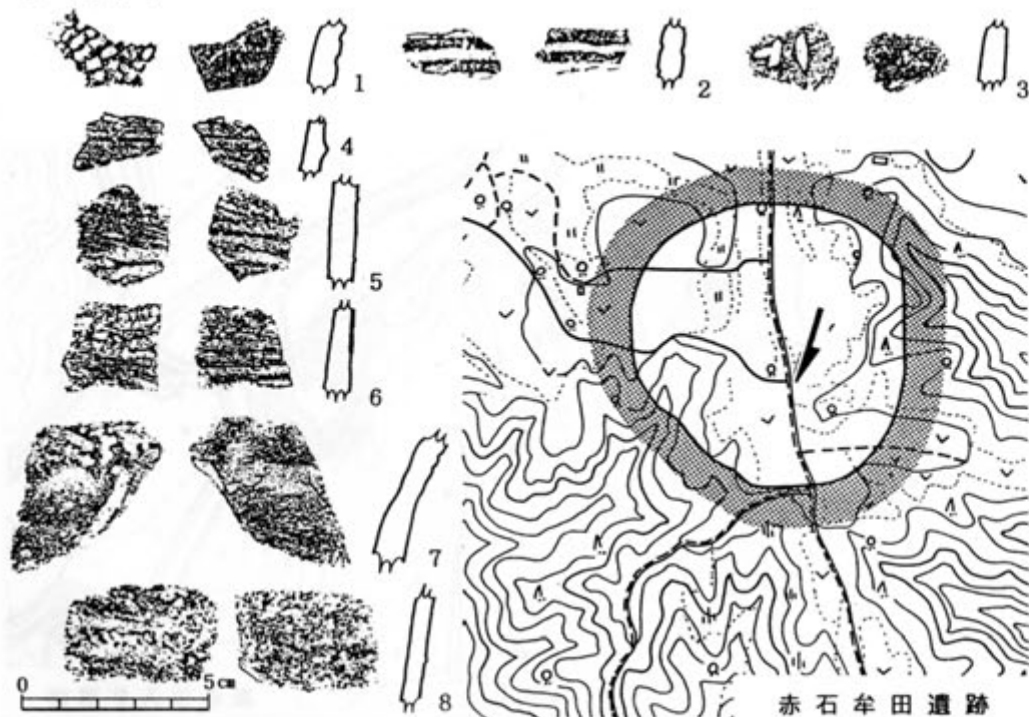
(1) 立地

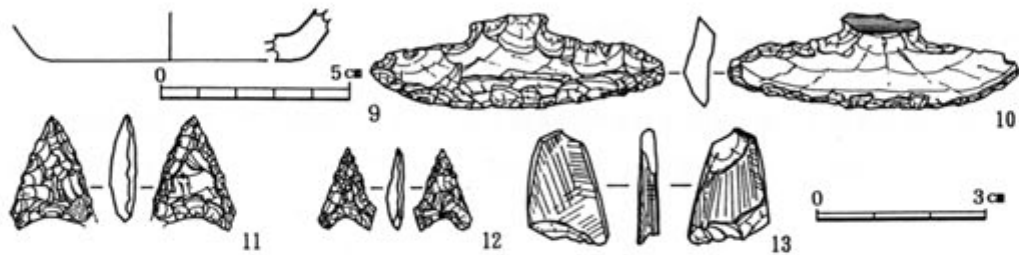
南種子町の最高所である長谷の台地は、最高位の段丘面であると指摘されているところであるが、ここには多くの縄文時代遺跡があり、赤石牟田遺跡もそのひとつで、平坦面の東南端に近く、遺跡の西側には長谷川によって開析された深い谷が入っており、この遺跡のあたりから尾根上の地形に変わって行く。標高は約180mである。

(2) 時代

縄文時代早期・前期

(3) 遺物等





畑の地下げによって多くの遺物が散布しており、1～3の曾畑式土器、4～6の轟式土器、7の塞之神式土器、10は石ヒ・11～13の石鎌、その他整形石斧等多くの土器片や黒曜石の剥片を採集した。8は吹上町塚ノ越遺跡で出土した、塞之神式土器に伴う壺形土器に類似している資料である。なお、集石遺構も畑の中に露出していた。

11 福ヶ野A遺跡（ふくがのA）（南種子町平山福ヶ野）

(1) 立地

福ヶ野A遺跡は、赤石牟田遺跡と同じ最高位段丘面にあり、地向斜によって出来た長谷の池の近く、台地縁辺に立地している。標高は約180mである。

(2) 時代

縄文時代

(3) 遺物

内面に荒い貝殻条痕の残る土器片1点を採集した。



福ヶ野A遺跡



12 福ヶ野B遺跡 (ふくがのB) (南種子町平山福ヶ野)

(1) 立地

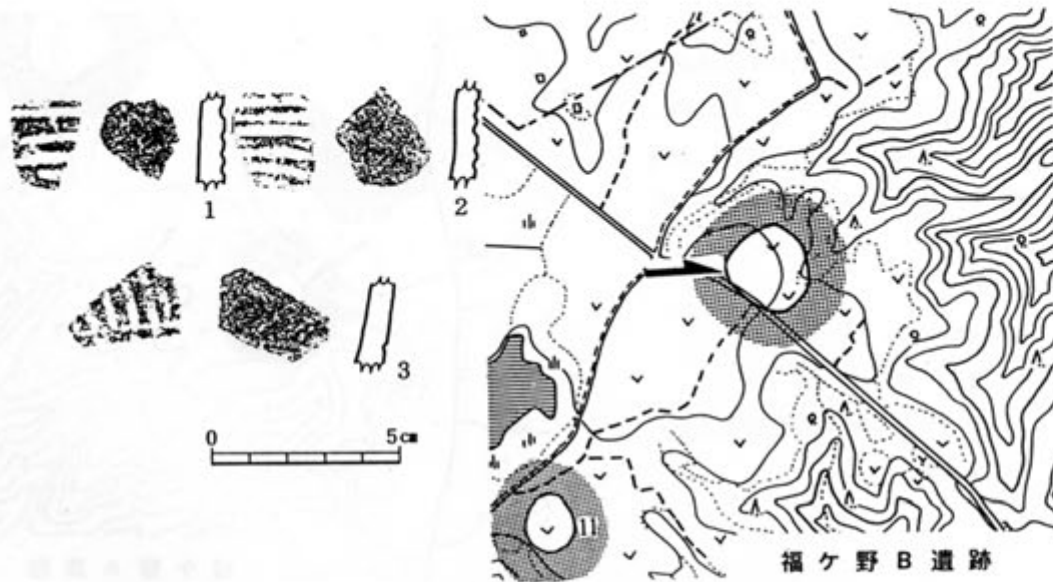
福ヶ野B遺跡は、同A遺跡や赤石牟田遺跡と同じような立地環境で、福ヶ野A遺跡から北東に約1km程離れた台地の縁辺で、東側には深い谷が切り込んでいる。標高は約185mである。

(2) 時代

縄文時代前期・後期、古墳時代

(3) 遺物

1～3は曾畑式土器である。他には、縄文時代後期のものかと思われる貝殻条痕による調整痕を残すものや、成川式土器の破片を採集した。



13 上平遺跡 (うへのたいら) (南種子町平山上平)

(1) 立地

水牛集落から冷水川を遡った左岸の台地上に立地しており、標高は約30mあり、谷低地との比高は約20mである。現在は何枚かの段々畑に別れているが元々は緩やかな起伏の丘陵であったと思われる。

(2) 時代

縄文時代前期、中世(15世紀)

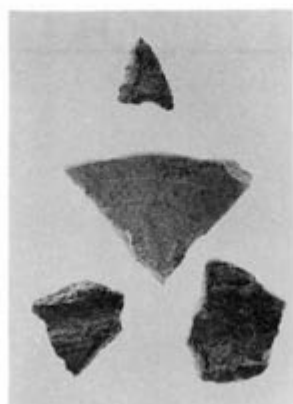
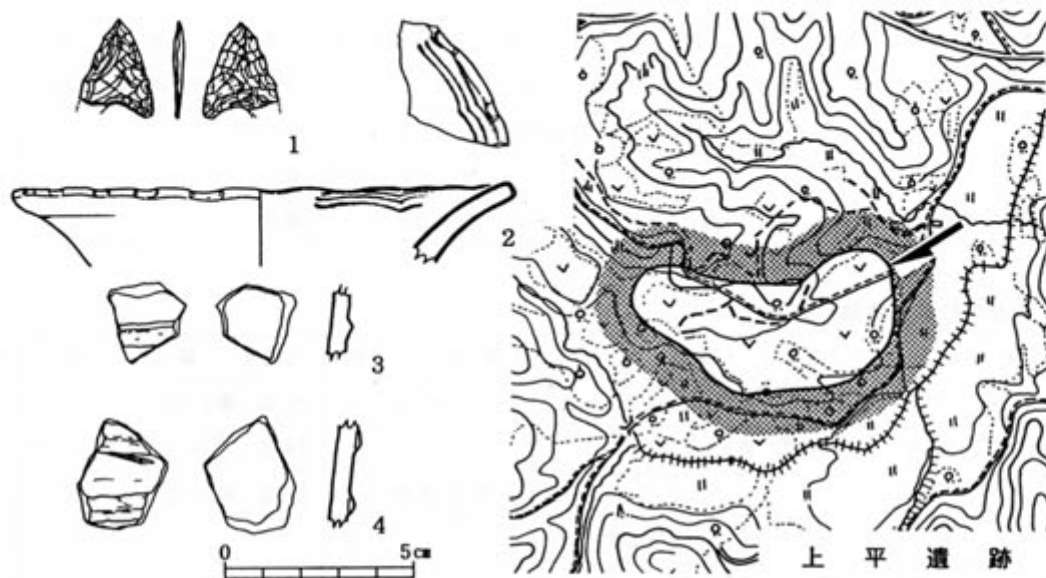
(3) 遺物

1は頁岩の石鏃で、おそらく3・4の土器に伴う物と思われる。

2は青磁の陵花皿である。

3・4は轟式土器で、断面三角の隆起線が張り付けてある。

その他に、多くの縄文土器の破片や土師器片を採集した。



第4節 上屋久町

上屋久町は、屋久島の北半と口永良部島からなるが、今回の調査では口永良部島及び永田地区以西は調査対象からはずした。

さて、屋久島の地形は、宮之浦岳（標高1935m）を主峰とする壮年期の山地と、その山麓傾斜変換点から始まる海岸段丘と、段丘崖下の海岸低地に分けられる。この海岸段丘は5段の段丘面が指摘されており、この内標高100mから同30mにかけての段丘がもっとも広く分布し、これら段丘面は中小の河川による開析が進み、崖錐堆積物ないしは扇状地堆積物でおおわれている。

遺跡の立地は、この段丘面と海岸低地の砂丘上がほとんどである。

調査は11月24日から同25日まで実施した。

上屋久町の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	採集遺物	時期	備考
1	八石山之上下遺跡	上屋久町宮之浦八石山之上下	谷斜面	無	不明	四連段築覆石室
2	小落上遺跡	〃 小瀬田小落上	海岸段丘	縄文土器	縄文時代	
3	小落遺跡	〃 〃 小落	〃	縄文土器・土師器	縄文・中世	
4	下牧野遺跡	〃 楠川下牧野	〃	縄文土器	縄文	

上屋久町採集遺物一覧

遺跡名	番号	器種	備考	遺跡名	番号	器種	備考
八石山之上下遺跡			遺物なし、遺構のみ	小落遺跡	2	土器	縄文土器
上落上遺跡	1	土器	縄文土器			土師器	〃 5点
		〃	〃 4点	下牧野遺跡	1	土器	縄文土器
		石斧	千枚岩・胴部破片		2	〃	〃
		磨石	破片・砂岩		3	〃	〃
小落遺跡	1	土器	縄文土器			〃	〃 6点

1 八石山之上下遺跡 (やいしやまのうえした) (上屋久町宮之浦八石山之上下)

(1) 立地

八石山之上下遺跡の位置は、宮之浦川が宮之浦市街地にさしかかるあたりの、左岸の谷斜面で、谷斜面の頂部の緩斜面から急斜面に変化する地点に遺構群が構築されている。

遺跡からは、宮之浦川の河口や右岸の市街地等が見渡せるほか、直下の川面のキラメキも杉の木間隠れに見透かせる。しかし、谷頂部と左岸市街地からは死角になって、遺構群を見ることはできない。

また、夏季の東南の季節風は背後の尾根で遮られるものの、冬期の北西の季節風は川面からの吹上げもあって、かなり強いものと思われる。日照についても、夜明け直後を除いて、ほぼ終日日当たりは良い。

川面からの高さは約50~60mである。

以上のような立地環境が、この遺跡の性格解明の糸口になるかと思われる。

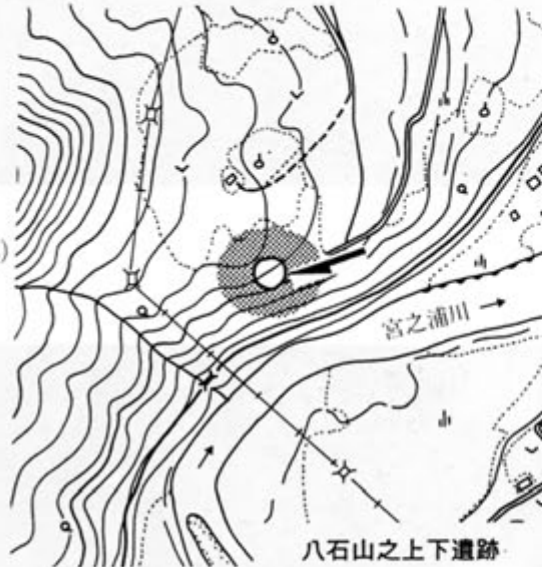
(2) 時代

不明

(3) 遺物等

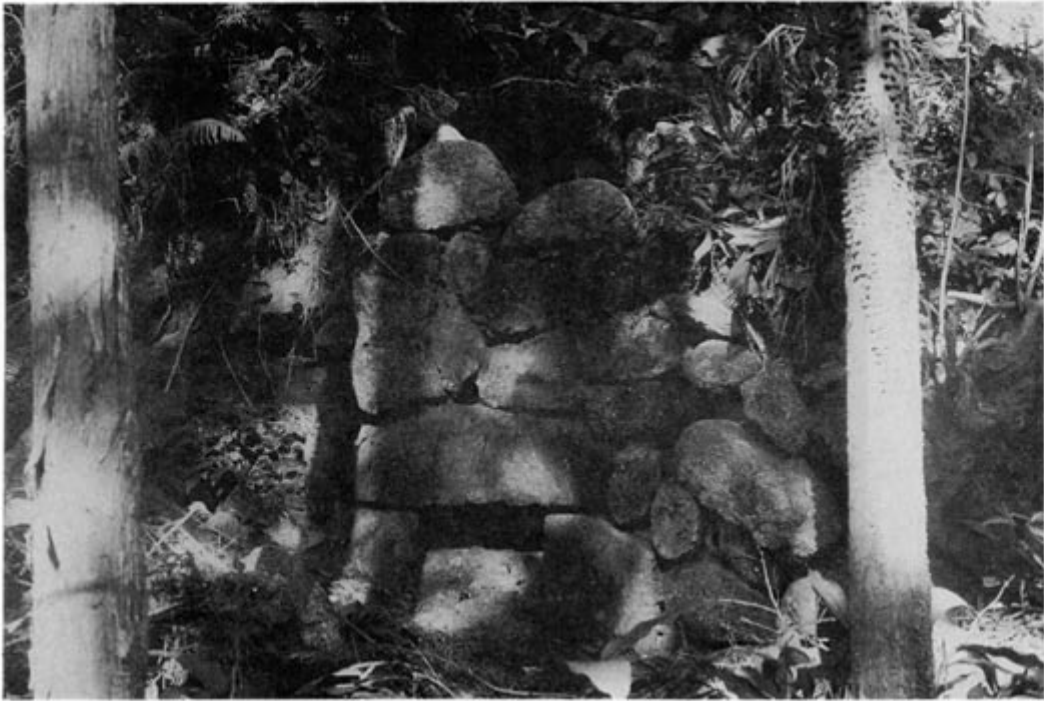
土器・石器・金属器等の遺物は採集していない。

確認したのは、四連段築覆石石室(仮称)が1基と、金葉を含む焼土・粘土の径1m高さ20cmのもり上がり4箇所、及びこれらの周囲の地山削平面である。



八石山之上下遺跡





2 小落上遺跡 (こおとすうえ) (上屋久町小瀬田小落上)

(1) 立地

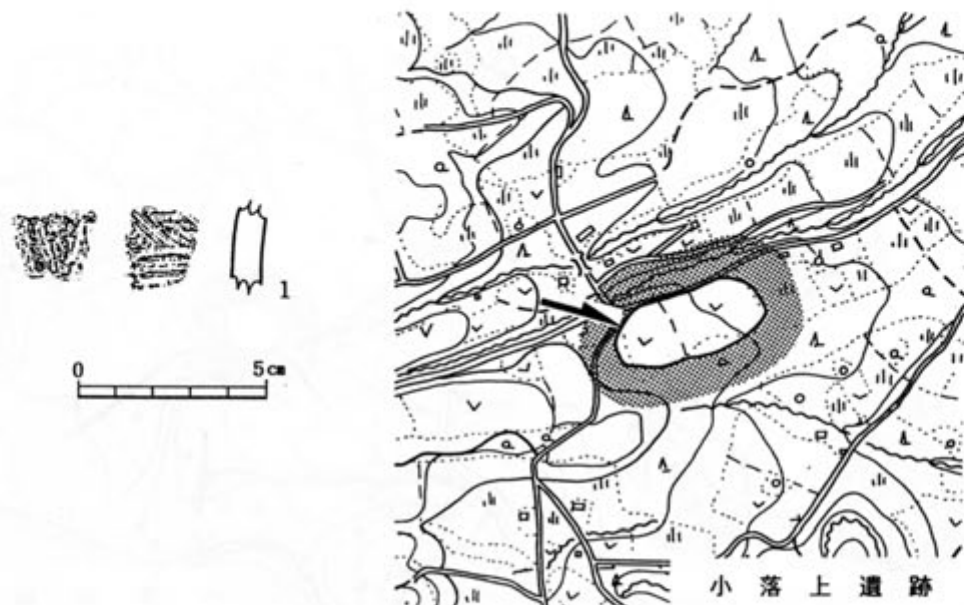
屋久島空港の西南，長嶺集落の背後に位置している。小瀬田周辺は屋久島島内でも海岸段丘が良く発達しているところであるが，小落上遺跡は段丘面の中程に立地しており，遺跡の北側は小さな谷で区切られている。標高は約90mである。

(2) 時代

縄文時代

(3) 遺物

1は内外面ともヘラ調整の縄文土器片であるが，小片であるため型式等は分からない。他にも土器片を何点か採集したがいずれも微細な破片のため図化しなかった。また，石斧の破片・磨石の破片を採集している。



3 小落遺跡 (こおとす) (上屋久町小瀬田小落)

(1) 立地

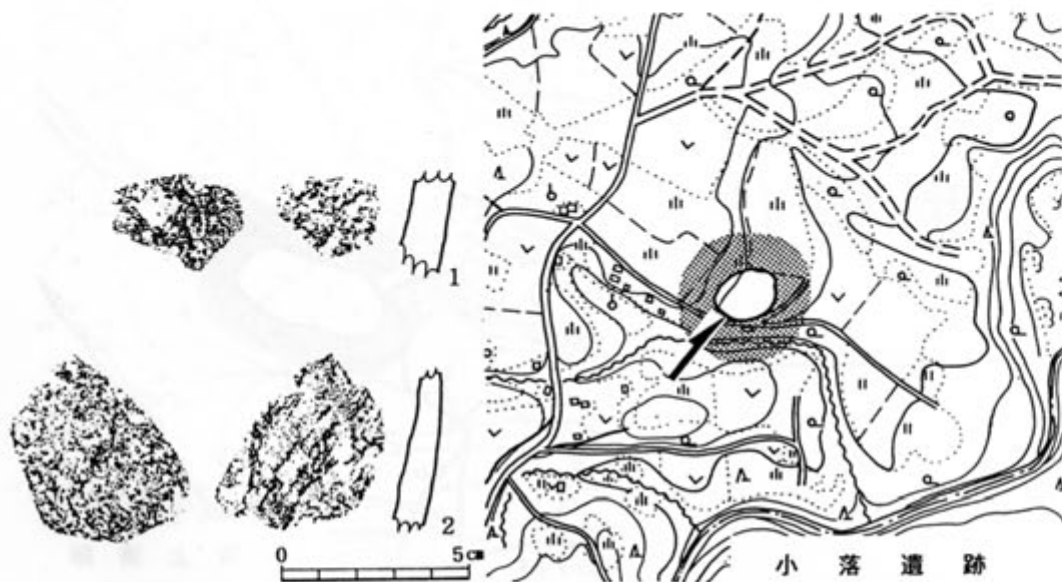
小落遺跡は、屋久町の町界に近い海岸段丘の縁辺に立地している。小落上遺跡と同一段丘面であり、海岸の段丘崖まで30mほど離れており、南側には小さな谷が入っている。標高は約60mである。

(2) 時代

縄文時代、中世

(3) 遺物

1・2は内面にへら調整の痕を残す縄文土器の底部に近い破片である。胎土に粗粒の石英の他、長石・雲母・岩片等を含んでおり、花崗岩の風化した砂を混物に使っているようである。他に、土師器の破片を数点採集した。



4 下牧野遺跡（しもまきの）（上屋久町楠川下牧野）

(1) 立地

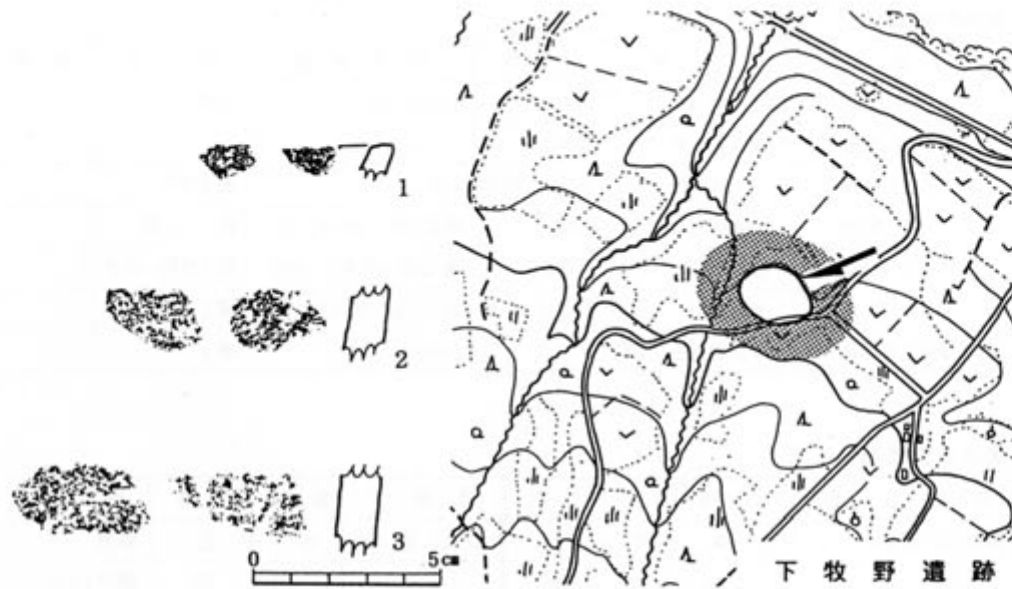
下牧野遺跡は楠川集落の背後の台地に位置している。ここの段丘面は背後の山からの崖錐堆積物で山麓側は覆われ、一見扇状地のような景観であるが、遺跡の立地しているのは、崖錐堆積物による傾斜が途切れ、平坦面が始まるあたりである。標高は約40mである。

(2) 時代

縄文時代

(3) 遺物

1～3は縄文土器の破片と思われるが、形式等は小片のため判別しがたい。胎土・焼成は74・75に類似している。これ以外にも数点の土器片を採集した。



第5節 屋久町

屋久町は、屋久島のほぼ南半分を占め、地勢的には中央山塊とその山麓の台地及び海岸低地とに分けられ、植生もこの地勢に応じて、高山帯から亜熱帯までの幅広いものが見られる。

今回の調査は11月16日から同月20日までの5日間実施し、新たに7か所の遺跡を発見した。このうち縄文時代の遺跡5か所、古墳時代の遺跡4ヶ所、奈良時代以降中世までの遺跡1か所である。（3遺跡は複合遺跡）

さて、屋久町の遺跡も上屋久町のそれと同様に、屋久島中央山塊山麓の傾斜変換点から始まる台地の中程に立地するものと、この台地縁一多くは段丘崖によって海岸低地と分かれる一に立地するものがある。台地は小さな沢によって開析されつつあるが、現状は果樹園・宅地・畑地等に利用されている。

屋久町の遺跡

番号	遺跡名	所在地	立地	採集遺物	時期	備考
1	東宮原遺跡	屋久町栗生東宮原	砂丘	成川式土器	古墳	
2	瀬ノ原遺跡	〃 湯泊瀬ノ原	海岸段丘	〃	〃	
3	新八野遺跡	〃 平内新八野	扇状地・扇端	石匙	縄文時代	
4	白字志遺跡	〃 小島白字志	台地	縄文土器・成川式土器	縄文・古墳	
5	山口遺跡	〃 春牧山口	海岸段丘	縄文土器・石斧・磨石・土師器	縄文後期・中世	
6	横峯遺跡	〃 春牧横峯	扇状地・扇端	縄文土器・成川式土器	縄文・古墳	
7	倉掛下町遺跡	〃 麦生倉掛及び下町	〃	苦浜式	縄文	

屋久町採集遺物一覧

遺跡名	番号	器種	備考	遺跡名	番号	器種	備考
東宮原遺跡	1	土器	成川式土器	山口遺跡	6	叩石	砂岩
〃		〃	〃 2点	〃		土器	破片14点
瀬ノ原遺跡	1	〃	〃	〃		土師器	4点
〃		〃	〃	横峯遺跡	1	土器	縄文土器
〃		〃	〃	〃	2	〃	〃 底部
新八野遺跡	1	石匙	黒曜石	〃		〃	〃 13点
白字志遺跡	1	土器	縄文土器	〃		〃	成川式5点
〃		〃	成川式土器	倉掛下町遺跡	1	〃	縄文土器
山口遺跡	1	〃	指宿式	〃	2	〃	〃
〃	2	石斧	安山岩	〃	3	〃	苦浜式
〃	3	〃	砂岩			〃	縄文土器17点
〃	4	磨石・叩石	花崗岩				
〃	5						

1 東宮原遺跡 (ひがしみやはら) (屋久町栗生東宮原)

(1) 立地

栗生川河口左岸の砂丘上の栗生中学校跡地及びその隣接地にある営林署官舎とその周辺に位置している。砂丘上面が、校舎その他の建造物の建築に際して削平を受け、包含層の遺物が地表面に上がってきたものと思われる。標高は約10mあり、川岸の低地及び川面との比高も10mほどである。

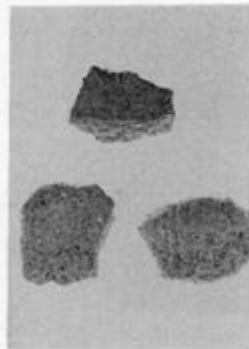
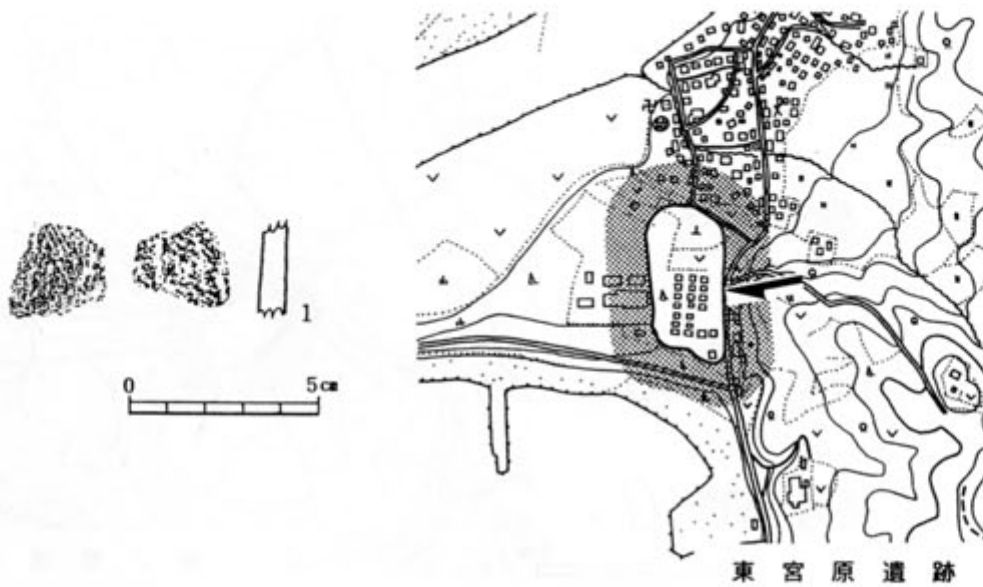
なお、この遺跡は周知の遺跡83-5「栗生中遺跡」と同一である。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

1は櫛目調整痕を残す成川式土器の破片である。他にも、何点かの成川式土器を採集した。



2 瀬ノ原遺跡 (せのはら) (屋久町湯泊瀬ノ原)

(1) 立地

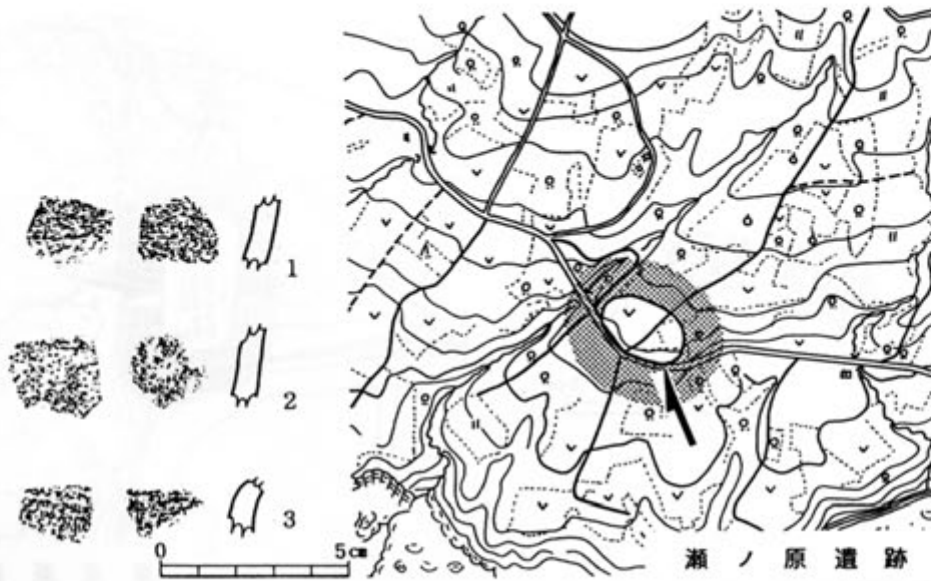
湯泊集落の西方の、花揚川とあみだ川に挟まれた扇状地に立地しており、標高70mくらいで、花揚川に面している。地形的には、湯泊の背後の緩斜面は段丘面を背後からの扇状地堆積物が覆ったためにできたものと思われるが、瀬ノ原遺跡が立地しているのは、扇状地堆積物による斜面が終わり、平坦面が広がり始める個所である。

(2) 時代

古墳時代

(3) 遺物

1は成川式土器の破片であるが、器形等は小片であるため判別しがたい。



3 新八野遺跡 (しんぱちの) (屋久町平内新八野)

(1) 立地

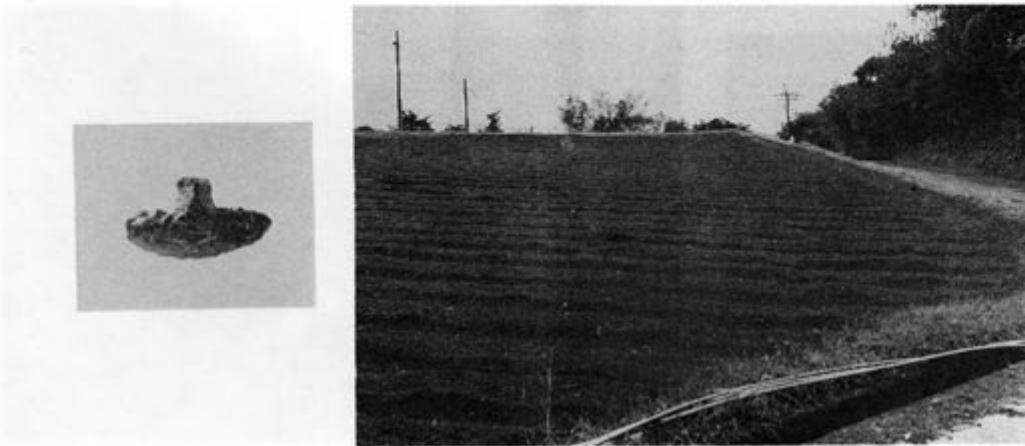
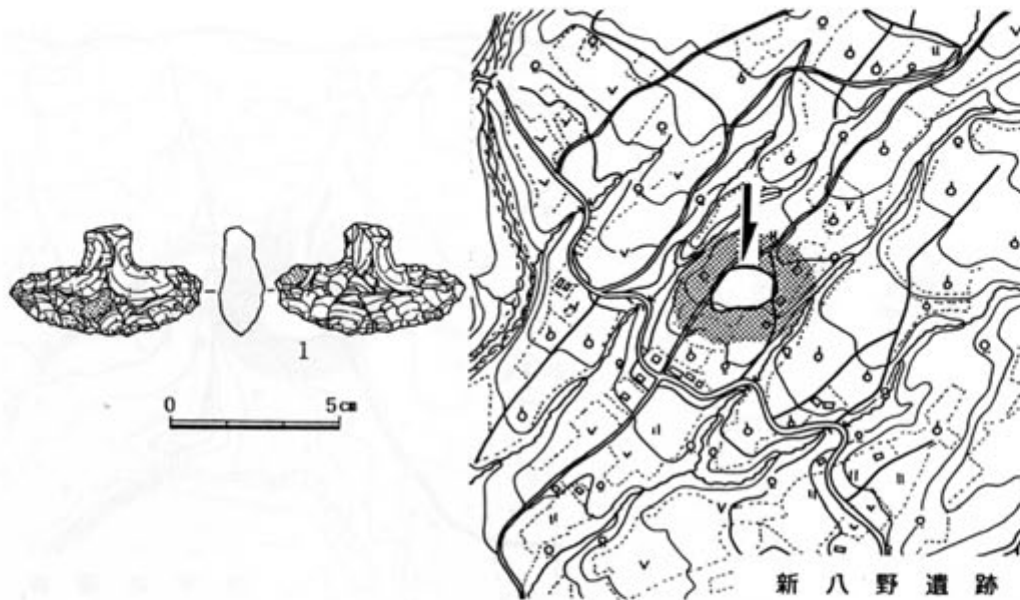
新八野遺跡が立地するのは湯泊の東方、大崎川・湯川による扇状地の扇端に近いところである。ここの扇状地は良く発達しているが、大崎川・湯川以外の小さな川で開析されつつあり、そのひとつであるとっくり川・泉川に挟まれた、尾根状になった緩斜面に位置している。標高は約60mである。

(2) 時代

縄文時代

(3) 遺物

1の石匙一点を採集した。黒燧石の剝片を素材とし、割に分厚い体部を持つものである。土器片は採集できなかった。



4 白宇志遺跡 (しらうじ) (屋久町小島白宇志)

(1) 立 地

白宇志遺跡は、小島集落の西にある大きな谷に臨む台地端にある遺跡である。この谷はそのまま海に続き湾を形作り、両側の尾根は緩斜面の扇状地である。

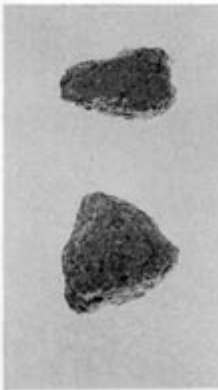
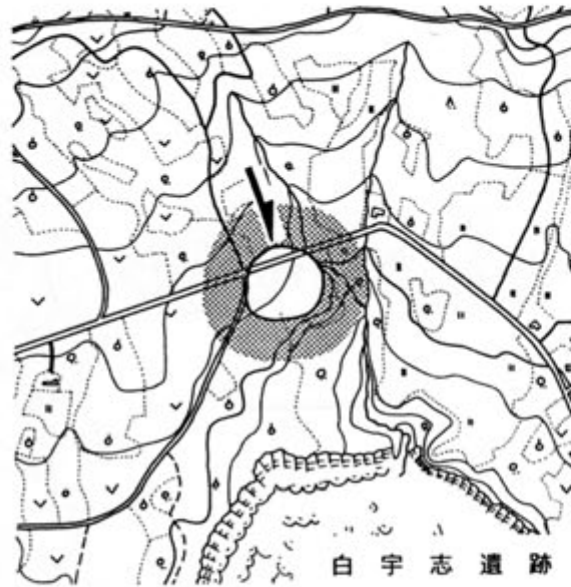
周辺の緩斜面上には遺跡を発見できず、谷頭部のここに小規模な遺跡が発見された。

(2) 時 代

縄文時代、古墳時代

(3) 遺 物

1は縄文土器の胴部片と思われる。この地に成川式土器の破片も採集した。



5 山口遺跡 (やまぐち) (屋久町春牧山口)

(1) 立地

安房川右岸の、前岳から春田浜にかけての山麓台地は、なだらかな起伏を持ち、土壌の堆積状況も良好である。この台地は多くの小河川に解析されつつあるが、神川・滝ノ小川に挟まれた所に山口遺跡は立地している。なお、標高は約85m、傾斜変換点から海岸段丘までのほぼ中程である。

(2) 時代

縄文時代後期 奈良・平安時代

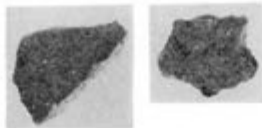
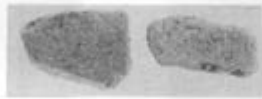
(3) 遺物

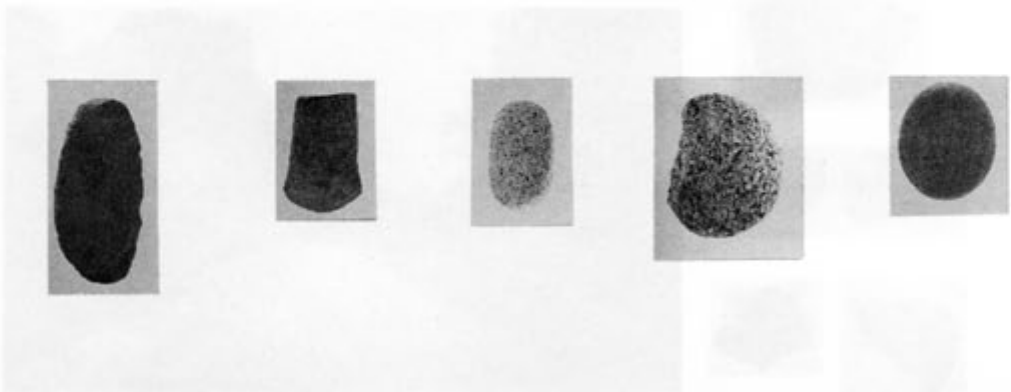
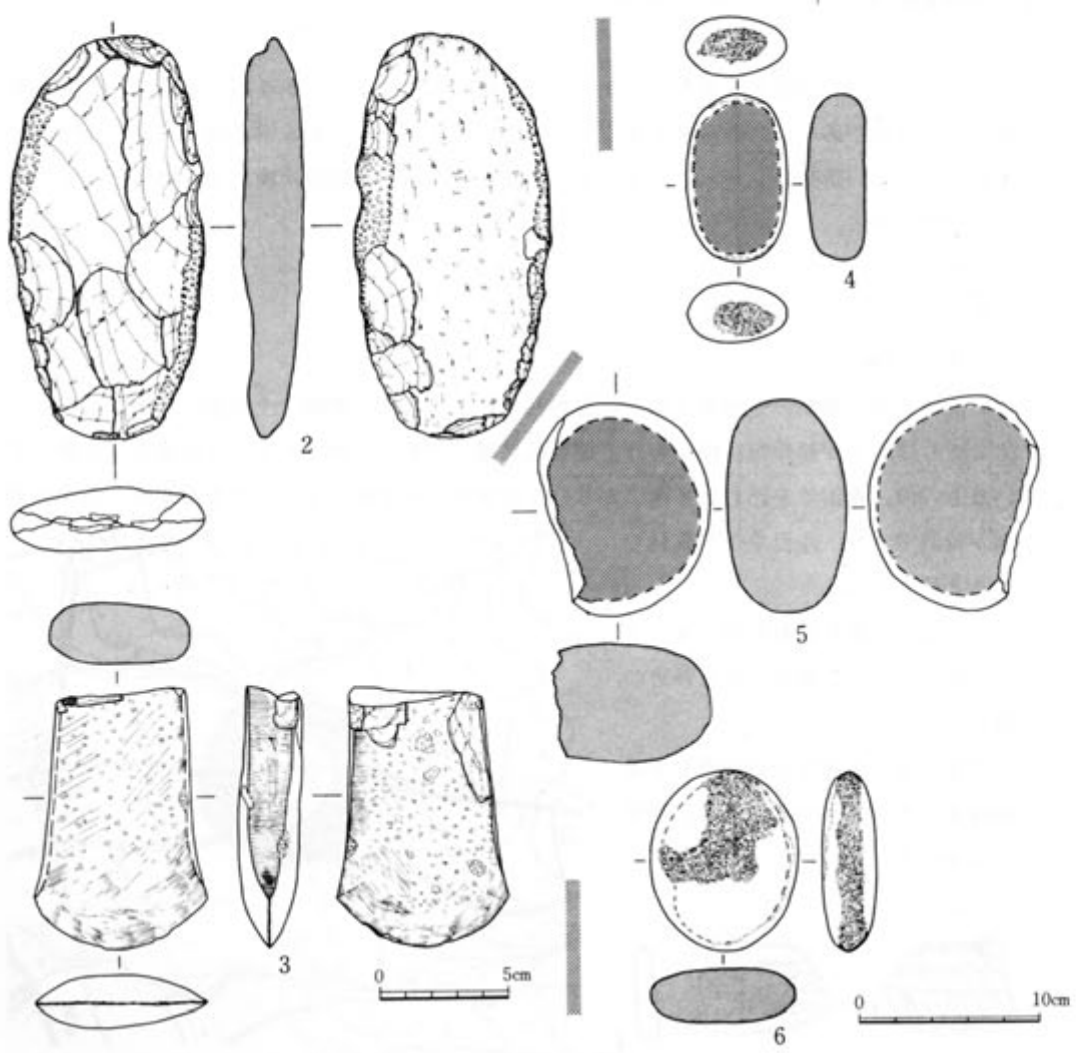
1は縄文時代後期の指宿式土器かと思われる。そのほか、微細な土師器片も採集した。

2～6は地主が耕作時に拾いあげて畑の脇に積んであった物である。3は頭部を欠損しているものの、青銅斧を思わせる末広がりになる胴部から刃部へかけての平面形態と弧状の刃部が特異であり、注目すべき資料であると思われる。

2は安山岩製の打製石斧、4・5は花崗岩の叩石・磨石、6は砂岩の磨石である。

土器は他にも縄文土器の破片を多数採集したが微細であるため、図化しなかった。





6 横峯遺跡（よこみね）（屋久町春牧横峯）

(1) 立地

周知の遺跡である83-5「横峯遺跡」と同一である。

山口遺跡と同じ扇状地に立地しているが、この横峯遺跡は扇端に近く、扇状地堆積物による傾斜が終わり、本来の段丘面が始まるあたりに立地している。竹女護川の谷が遺跡の西を南北に走るほかは、周囲は平坦な段丘面が広がっている。

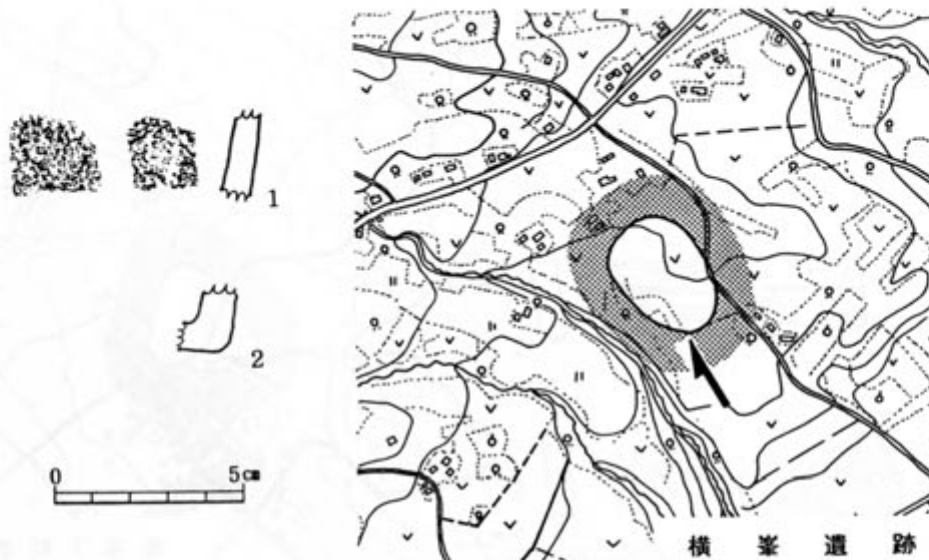
なお、この遺跡は19年に鹿児島大学によって発掘調査がなされている。

(2) 時代

縄文時代、古墳時代

(3) 遺物

1・2は縄文土器の破片である。2は網代痕が微かに残っている。他にも縄文土器の破片を多数と成川式土器の破片を若干採集した。

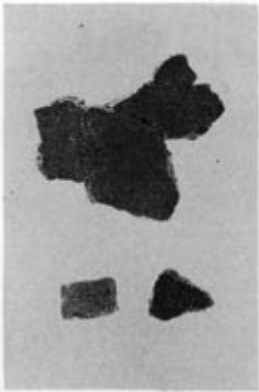
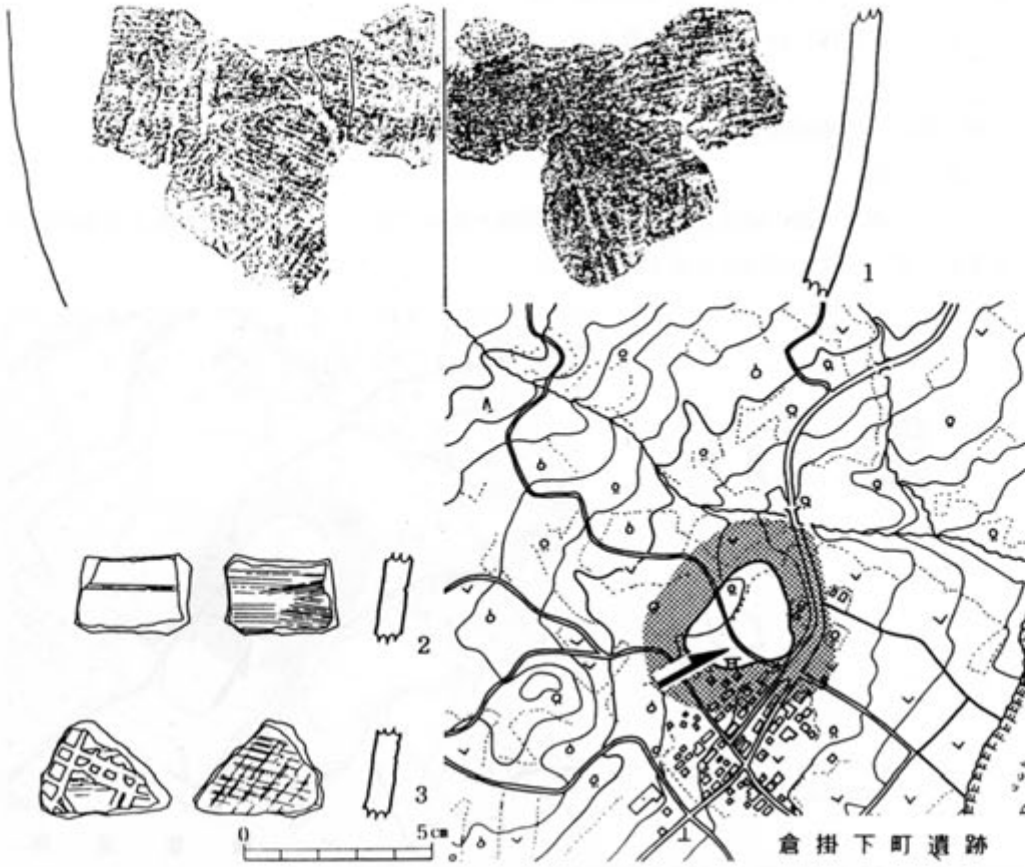


7 倉掛下町遺跡 (くらかけしもまち) (屋久町麦生倉掛及び下町)

(1) 立地

麦生の観光林業漁業管理棟及びグラウンドの北西に立地している。小字「倉掛」と「下町」の両方にまたがるため、二者を併せて遺跡名とした。

この遺跡も他の遺跡と同じような地形であるが、県道及び集落より海側に一段低い低位



段丘面があるにもかかわらず、そこには遺跡は確認出来ず、扇端に立地しているところが他の遺跡と若干異なるところである。

なお、採集した遺物は、畑に掘って合った穴の周囲及び穴の中で発見したものであり、その土層を観察したところ、地表下50～60cmの所に黒土層があり、それが包含層であった。その下位は淡黄褐色の細砂層になっていた。

(2) 時 代

縄文時代

(3) 遺 物

3は苦浜式土器ではないかと思われ、沈線による文様が観察される。また、1も器面調整・胎土・焼成が良く似ており、そうではないかと思われる。他にもこれとよく似た土器を若干採集した。

まとめにかえて

狭い対象地区の、また限られた期間の調査ではあったが、それなりの成果を上げられたのではないかと思っている。

種子島では、内陸部の台地上に多くの縄文遺跡を発見できた。屋久島では、山麓の扇状地先端に小さな遺跡が多数あった。また、両島で砂丘遺跡をいくつか発見出来た。

詳しく検討して見ないとはっきりしないが、種子・屋久両島での縄文時代から中世までの遺跡立地の変遷には、何かしら一定の法則があるような感じがする。おそらく、その時々を生業形態と、当時の動物相・植物相の織りなすものであろう。今後、この面からの遺跡研究もすすめられる必要がある。

生業活動に応じての遺跡立地の変遷を知ることができれば、今の我々が求める自然環境の在処を遺跡をつうじて知ることにもなるのではないか。だとすれば、鹿児島サン・オーシャン・リゾートの事業構想もまた、……。

とりあえずは、この分布調査の成果をいかして、事業の進展と埋蔵文化財の保護とを調和させなければ、と思う。

最後に、分布調査に協力いただいた関係市町の教育委員会の皆様、わけても西之表市教育委員会・河野博康種子島開発総合センター主査、中種子町教育委員会・岩坪博秀文化係長、南種子町教育委員会・上園和信体育文化係長、上屋久町教育委員会・計屋正人社会教育課主事、屋久町教育委員会・西田博隆文化課主査に御礼申し上げます。また、調査事務所での事務補助と整理作業にご協力いただいた皆様にも御礼申し上げます。

調査事務所事務補助 深町明美

整理作業員 喜入カツエ、川畑明子、岩城カヨコ、徳永郁代、久山七代

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(66)

鹿児島サン・オーシャン・リゾート地域 埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅰ)

平成5年3月発行

発行 鹿児島県教育委員会
〒892 鹿児島市山下町14-50

印刷 アルプス印刷有限公司
〒891-01 鹿児島市星ヶ峯二丁目18-12